

(平成29年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～12
② やおき工房	13～17
③ ゆうあいホーム・すてっぷはうす・第2すてっぷはうす	18～22
④ 訪問介護支援センター	23～24
⑤ 陽だまり	25～27
⑥ ハモニティー	28～31
⑦ 紀南障害者就業・生活支援センター	32～34
⑧ 地域活動支援センター	35～36
⑨ サンヒルズ・クローバー・オレンジ・ユースⅦ・アップル・レモン	37～38
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・くまのこ作業所	39～44
⑪ こどうの家・第2こどうの家	45～46
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所	47～50
(白浜町)	
⑬ かへむ	51～53
⑭ ほわいとホーム	54～55
(みなべ町)	
⑮ すまいる	56～60
⑯ みなべ鹿島ホーム・サンフラワー	61～63
(すさみ町)	
⑰ いなづみ作業所	64～67
(上富田町)	
⑱ 南紀の台ホーム	68～70

法人 事業報告

29年度の事業計画法人基本方針に沿って以下の点に取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

29年度は、社会福祉法人改革の本格施行があり、より一層の情報公開を踏まえた運営と地域貢献への視点が必要となった。利用者の権利を踏まえた福祉サービスの提供においても社会福祉法人の強みを生かした支援の向上に努めてきた。人権擁護、虐待防止等、事業所の義務とされている質の向上等に取り組むとともに、合理的配慮や意思決定など、より利用者に寄り添う支援を提供してきた。

- ① 相談窓口においては、法人内福祉サービスの枠を超え、他法人資源との調整等を実施し、
包括的な支援を心がけ、ニーズ中心の支援を行った。
- ② グループホームについては、居住としての各種法令で求められる整備を行うとともに、安全・快適な生活、集団関係を大切にしたり関わりや個別の希望、ニーズに応じて、生活の質を高めるための支援を行った。また、支援体制の在り方についても昨年時からの課題を引継ぎ、体制の再編を行った。
- ③ 就労系事業所においては、工賃アップを目標とした授産努力を行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのレベルアップを図ってきた。生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。
- ④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに自治団体支援と各種交流やレク・旅行などに取り組んだ。また、夜間・休祭日などにおいても個別の特性に応じた相談や不安対応などを行った。
- ⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間の連携を密に行うとともに、個別の対応を行った。
- ⑥ 日中活動、生活両面にわたって、利用者自身が選択・決定できるよう、モニタリングを丁寧に行うとともに、意思決定支援に関する研修を行った。
- ⑦ 合理的配慮に基づく取り組みに関しては「合理的配慮」の事例等について明確なものではなかったが、研修等を通じて意識づくりを行った。
- ⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、制度の動向もあり、具体的な検討はすすまなかった。

2. 新たな財務運営

平成29年度から本格的な実施となった「新社会福祉法人制度」に基づいた運営を行った。「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、29年度においても対

象とはならない運営を行うことができた。

- ① 事業を確実かつ適正に実施する為の、経営基盤の強化について第1次補正～第3次補正までの提案を行い、安定的な運営を確保するとともに、状況を共有した。
- ② 各事業の利用状況について、月次に所長会議を通じて把握を行い、収支のバランスを確保しつつ、運営課題の検討を行った。また、平成30年度から予定されていた「総合支援法の一部改正＝報酬単価の改定」に備え、後期においては改定見込みである各事業について検討しながら準備を行った。
- ③ 固定資産の取得及び大規模な施設整備に関しては、前年度実施できなかった「ゆうあいホーム」の屋根改修（ソーラーパネル設置）を行った。また、将来的な展望を見越して南紀の台に物件（土地・建物）を購入した。
その他、例年同様、必要に応じ車輛等の整備を行った。
- ④ 計画的な投資については、所長会議で諮りながら優先順位を確認しつつ、新たな必要性についての検討を図った。
- ⑤ 職員の処遇改善を踏まえ、定期昇給を行うとともに、本年度から管理職手当を変更し、年度中の給与検討委員会で検討を図り、正規職員の俸給表上限改定、契約職員の賃金規程、ホームヘルパーの日給制導入のほか、法令に基づいた、パート・契約職員の無期労働契約への転換を行った。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

平成29年度においても一定の離職があったが、求人難の傾向は続いており、人材確保においては困難を伴った。定時採用に向けては学校求人も実施したが、高校は時期的な制約があり、大学等については給与等の面から実効的な求人とはならず、紹介程度に留まった。今後の継続については、検討を重ねていくことが必要と考えている。

その他の人材育成では、所長任用を踏まえた「主任」の育成が重要であるため、年度途中より「主任研修」を継続的に実施した。

4. 地域における関係機関との連携

事業所ごとに、授産や行事を通じて拠点地域の関係団体・町内会・住民等との交流や企業との連携、行政・医療・保健・福祉団体との連携をすすめてきた。そのほか、各種団体への役員や委員の派遣、講師等の派遣などあらゆる場面において協力関係を保つ取り組みを行った。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

自立支援法の施行以後、福祉サービスには多様な事業者の参入が始まり、現在において、定着している傾向にある。そうしたもとで社会福祉法人の役割を差別化するため「社会福祉法人制度」が改定されることとなったが、地域においては、生活支援を担う事業への参

入は少なく、生活を基盤にした重度障害者の支援体制が社会福祉法人に求められつつある。

役員や経営基盤、情報公開等においては制度を遵守する体制確保を図ってきたが、今後は、実際の多様な支援において社会福祉法人がどう向き合っていくのか課題として残っている。

6. 法人20周年の取り組み

昨年度に引き続き、実行委員会形式により、法人全体が一同に集う新年会を開催した。今年度は準備にかかる時間を考慮し、昨年よりも軽易な催しであったが、利用者・職員・役員・後援会等、300人近い参加が得られ、日々顔を合わせる機会が少ない利用者・事業所間の交流を図ることができた。

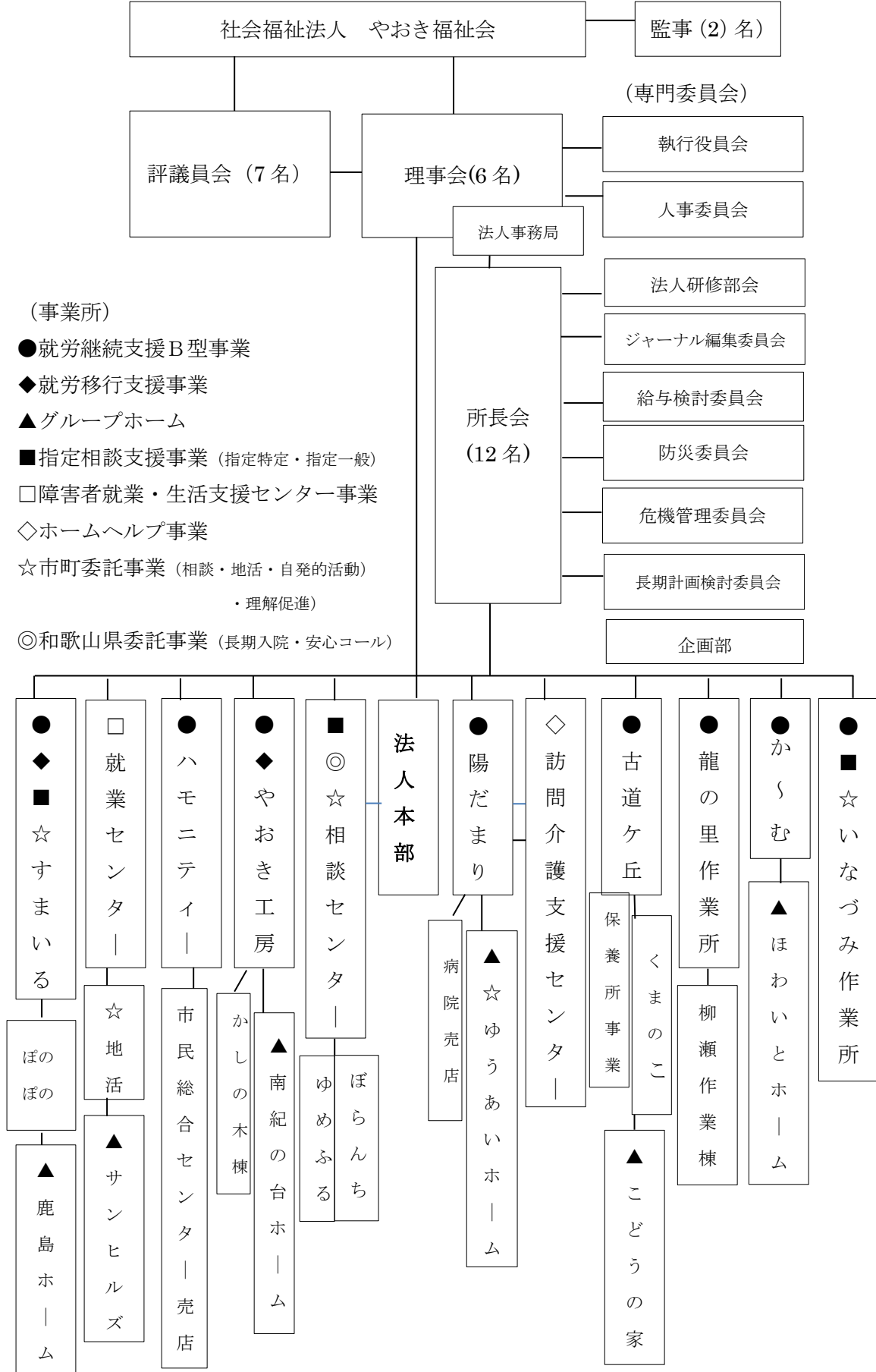
7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	03日 辞令交付式・10年勤続表彰式 11日 執行役員会 17日 所長会議 25日 執行役員会 27日 人事委員会	07 研修部会 18日 苦情解決委員会 21日 新人職員研修 28日 新人職員研修
5月	09日 執行役員会 10日 法人事務局会議 15日 所長会議 18日 監事説明会 22日 監事監査 23日 執行役員会 27日 理事会・評議員会	10日 すさみ町人権擁護委員会への講演 12日 新人職員研修 25日 やおきジャーナル発行
6月	06日 法人事務局会議 13日 執行役員会 19日 所長会議 20日 法人苦情解決委員会 27日 執行役員会 29日 人事委員会	06日 研修部会 12日 動機づけ面接法研修 20日 苦情解決委員会 30日 後援会総会
7月	11日 執行役員会 11日 法人事務局会議 13日 主任ヒアリング会議 25日 執行役員会	02日 紀南福祉人材バンクに参加 07日 研修部会 10日 動機づけ面接法研修 18日 研修部会

	25日 所長会議 28日 理事会 8日 ホームヘルプ改善委員会	13日 主任研修
8月	01日 法人事務局会議 08日 執行役員会 19日 評議員会 21日 所長会議 22日 法人苦情解決委員会 22日 執行役員会 23日 給与検討委員会	22日 苦情解決委員会 23日 給与改定委員会 25日 やおきジャーナル発行
9月	05日 法人事務局会議 07日 ヘルプ改善委員会 12日 執行役員会 25日 所長会議 26日 執行役員会	13日 主任研修 22日 法人職員交流会（ボーリング） 27日 ゆうあい工事入札
10月	03日 法人事務局会議 10日 執行役員会 11日 人事委員会 18日 ヘルプ改善委員会 20日 理事会 23日 所長会議 24日 執行役員会	05日 企画部会 13日 主任研修 16日 法人研修（動機付け面接） 23日 視察研修（高工賃の取組） 24日 苦情解決委員会 27日 高校生のための企業説明会
11月	07日 法人事務局会議 08日 執行役員会 14日 執行役員会 15日 人事委員会 18日 理事会 20日 所長会議 28日 執行役員会	01日 法人内希望調査 02日 企画部会 13日 主任研修 13日～14日 所長：事業ヒアリング 18日 やおきジャーナル発行
12月	01日 人事委員会 05日 法人事務局会議 08日 執行役員会 18日 所長会議 20日 人事委員会 26日 執行役員会 27日 人事委員会	06日 企画部会 06日 給与改定委員会 10日 一般正職員任用試験 19日 苦情解決委員会 22日 主任研修

1月	09日 法人事務局会議 16日 執行役員会 17日 人事委員会 22日 所長会議 24日 人事委員会 29日 執行役員会	11日 企画部会 14日 主任正職員任用試験 09日 上富田町長挨拶 19日 人権推進員研修 25日 主任研修 26日 法人新年会（ビッグU）
2月	02日 ヘルプ改善委員会 13日 法人事務局会議 15日 ヘルプ改善委員会 19日 所長会議 21日 人事委員会 27日 執行役員会	05日 GH 検討委員会 08日 企画部会 11日 紀南福祉人材バンク参加 16日 主任研修 20日 苦情解決委員会 28日 研修部会
3月	06日 法人事務局会議 13日 執行役員会 15日 ヘルプ改善委員会 17日 理事会 19日 所長会議 27日 執行役員会	01日 制度・予算研修 03日 評議員会 05日 やおきジャーナル発行 08日 企画部会 09日 法人虐待防止研修 20日 和歌山県県団指導説明会 22日 ホームヘルパー説明会

8. 法人組織 (29年度の組織及び実施事業)



【指定特定・指定一般・市町委託相談支援事業等】

紀南障害者地域生活支援センター

1. 運営概況

前年までの課題対策として、平成 29 年 4 月からは本部と相談センターの分離を行い新庄町の事務所を拠点として事業を展開した。相談支援事業の種別は前年度と変化なく、サービス等利用計画作成のための「指定特定相談支援」、病院からの退院を支援する地域移行支援サービス、地域移行後の定着を支援する地域定着支援サービスの「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の委託による「委託相談支援」及び白浜町委託の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」に加え、和歌山県委託の「精神障害者夜間・休日あんしんコール事業」、「長期入院精神障害者地域移行促進事業」の 7 種 9 事業を行った。

また、事業の実施に係り、地域自立支援協議会等との連携や事業運営のための連携会議等を設置して、地域のネットワークを活用したチーム支援を行った。

全体的に、各相談に伴う連携機関と調整するための利便性は増し、合理的な支援を実施することができた。

2. 事業報告

- ① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）
福祉サービスの利用希望者に対し、サービス等利用計画の作成に関する相談支援を実施した。法人内事業所の利用者においては主としてそれぞれの事業所の兼任相談員がサービス等利用計画の作成を行い、相談センターとしてはサービス等利用計画の作成ができない他法人の利用者の計画を主として実施した。
運営的においては、計画相談の課題となっている「給付額と実支援のバランスの悪さ」は変わらず、質を保つ相談支援を実施するために苦慮する状況が続き、平成 30 年度に向けての改定が後期に示されたことにより制度改定への対応等に労力を要することも負担となった。
- ② 指定一般相談支援（地域相談支援）
精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」について、本年度、制度利用はなかった。ただし、制度利用は行わずに独自の支援により、退院前後の支援を行った。
退院後の安定、又は、地域生活の安定を図る「地域定着支援」についても制度利用はなかったが、委託相談支援を通して一定の見守りを行った。
- ③ 市町相談支援事業（委託相談支援）
田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

(田辺市)

名称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」
所在地 田辺市民総合センター2階
運営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
派遣 やおきより専任相談支援専門員1名(常勤換算1名)
実績等 年間相談支援件数 9, 244件(4法人合計)

(白浜町)

名称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
所在地 白浜町1279-9
運営 やおき福祉会、ふたば福祉会
派遣 やおきより兼務相談員2名(常勤換算0.8名) デイサロン補助(週1日6H)
実績等 年間相談支援件数 4, 513件(2法人計)

(相談センター事務所)

所在地 田辺市下三栖 1475-201 (本部敷地)

田辺市「ゆめふる」、白浜町「ぼらんち」での相談のほか、指定事務所である相談センターにおいては、ゆめふる・ぼらんち(下記表)に含まれない相談として2,398件で、うち、圏域外146件、県外14件であった。

④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県からの委託を受け、精神科病院に長期入院しており退院したいという意思が芽生えていない人を対象として退院意欲の喚起を目的として実施した。対象者は3名であったが、休止となっている1名を除き2名の方の支援を継続して行った。本人や病院スタッフの意識は大きな変化が見られたが、退院には繋がらなかった。(支援回数74回) そのほか、職種間の連携会議を月1回開催し、チーム支援の円滑化を図った。

⑤ 夜間休日あんしんコール事業

和歌山県からの委託を受けニーズに基づいた相談を、登録制により実施した。28年度の登録利用者は18名(中断者3名)、年間相談件数は1,465件であった。本年度において緊急対応はなく、電話による相談で、概ね、落ち着きが見られた。

事業の運営にあたっては、職種間の連携会議を月1回開催するとともに、地域自立支援協議会に進捗状況を報告しながらすすめてきたが、県の事情により同事業は本年度限りで終了することとなったため、2月~3月においては利用者宅を訪問し、不安軽減のための聞き取りと翌年度の相談方法について話を行った。

⑥ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週1回のデイサロンを提供するとともに、月1回、調理体験・茶話会・アウトドア(季節行事、ドライブ等)等のプログラム活動を行った。利用者数は、実人数13名、月平均利用者数は28名であった。

⑦ 白浜町啓発等理解促進事業

年3回の研修を実施した。(7月：共生社会、10月：高次脳機能障害、12月：差別解消法・合理的配慮)

3. 地域ネットワーク活動

①西牟婁圏域自立支援協議会活動

西牟婁圏域自立支援協議会に参加し、地域の体制整備等に係る連携活動をすすめた。やおきは地域移行部会精神部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題について、医療センター見学会、専門治療視察研修、ピアサポーター研修、年金制度研修に加え精神科医療の課題については県との懇談等を行った。

②田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4法人による「ゆめふる」の協働運営について、毎月、協議を行った。

③ 医療・保健連携会議の開催

地域の精神科医療等の課題に関し、県から受託した夜間休日あんしんコール事業、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を開催した。(計24回開催) そのほか、県の主幹する連絡会に年3回参加し、状況報告と課題提言を行った。

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

「ぼらんち」の円滑な運営を目的に、相談員会議、全体会議を毎月開催した。また、町内に設置された「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。

そのほか、町の課題について随時、町との協議・調整を行った。

4. その他の活動

① 法人研修や他機関の主催する研修に参加するとともに、事業所において事例検討等を頻繁に実施した。

② 大学及び専門学校から「精神保健福祉士」取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施した。

③ 行政及び諸団体に委員等を派遣し、支援協力等を行った。

④ わされん対県懇談委員会精神グループの事務局を担い、精神障害に係る課題等の整理と要望を行った。そのほか、グループにおいて県内精神関連職種の交流会を開催した。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（買い物、カラオケ）

5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（和歌山イオン）
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（お菓子づくり）
7月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（ランチバイキング） 理解促進研修（共生社会の実現）
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（カラオケ） 夏祭り、医療センター懇談会
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（パーベキュー）
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（ロマンシティー） 理解促進研修（高次脳機能障害）
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（避難場所確認、喫茶）
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（クリスマス会） 理解促進研修（合理的配慮）
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（鍋パーティー）
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（県立自然博物館）
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域移行支援・長期入院者の地域移行支援、あんしんコール相談	デイサロン（お菓子づくり）

6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（7人）	ぼらんち全体（2.6人）	

	やおき派遣数 (1人)	やおき派遣数 (0.8人)	1.2人
相談支援件数計	9,244件 (4法人)	4,513件 (2法人)	※4,984件 (内、2,586は左記に含む)

相談センター年代別相談件数 (障害内訳: 身体 118、知的 595、精神 4026、発達 115、高次脳 121、難病 5、不明 4)

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
136人	6	576	708	1,426	1,405	605	11	3

7. 県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院 (2人)	7	8	8	8	7	8	7	4	6	3	4	4	74
あんしんコール (19人)	71	98	82	108	143	140	141	137	146	126	127	146	1465

【就労移行支援・就労継続支援B型事業所】

やおき工房

1. 運営概況

今年度も就労移行支援事業 (定員 10 名) と就労継続支援事業 B 型 (定員 24 名) の 2 事業の多機能型として運営を行った。

就労移行では、利用者の入退所のバランスが崩れ、恒常的に定員割れとなっている。就職を希望する者には、タイミングが来た時には就職していただくという『逃すなチャンス！』をモットーでやっているのですが、おのずとその状況は生まれやすくなっている。今後もこの状況は続くと思われ、30 年度からの給付費の大幅減収と相まって、より先細りの事業となっていくような状況である。法人として就労移行事業の運営をどうしていくのかの検討も必要になってくるかも知れない。また、就職したり職場実習が増えてくることで、給食センターの作業が回らない状況もあり、年度途中から就労継続 B 型の利用者も加えての作業とせざるを得ない状況となる。体力面や障害等による個別的配慮も必要となってきており、短時間・隔日訓練等の柔軟な事業運営も求められているが現状 (作業量や作業人員体制) とのすり合わせの困難さや就労の募集条件とのマッチングが上手くいくかの危惧もあり、どこまで個別配慮に応じていくべきかの課題もある。

就労継続 B 型では、工賃向上と自主製品『りさいくる手作りめも帳』の開発と販路拡大に取り組んだ。現在の施設外就労先には委託費の値上げ交渉等を行い、割の良い作業の開拓・選択に励んだ。高齢化も進んでおり、今年度も介護保険のデイサービスと併用する利用者も出てきた。入院が長期化する利用者や短期入院を繰り返す利用者

も増えてきており、作業支援とともに生活支援・健康管理支援が重要になってきている。

就労移行では、利用者数は 12 名、延べ開所日数 294 日、延べ利用者数 2,090 人、1 日平均通所者数 7.2 人であった。利用者の障害種別(重複含む)は、知的障害 8 名 (66.7%)、発達障害 4 名 (33.3%)、精神障害 3 名 (25%)、身体障害 0 名 (0%) であった。

就労継続支援事業 B 型では、利用者数は 32 名、延べ開所日数 249 日、延べ利用者数 5,149 人、1 日平均通所者数 20.7 人であった。利用者の障害種別(重複含む)は、精神障害 29 名 (90.6%)、知的障害 6 名 (18.8%)、発達障害 3 名 (9.4%)、身体障害 1 名 (3.1%) であった。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行

- ・延べ 12 名が利用し、その内 4 名が就職(内 1 名は途中退職)、利用延長した者が 2 名、また法人内の就労継続 B 型に移った者が 1 名であった。
- ・給食センターでは、厨房業務に慣れた利用者が就職や職場実習により従事できなくなり、新たな利用者の育成が間に合わないことが課題であった。そのため、就労継続支援事業 B 型の利用者で就職を希望する者もかかわる事業とした。
- ・今年度は利用者同士のミーティングを大切にして、意図的にミーティング機会を作った。空の日フェスタのバザーを活用して、利用者中心で出店物や予算・準備・実施に至るバザー運営が行えるようにサポートした。収益の 4 万円弱の使い道についても話し合い、焼き肉パーティーやボウリング交流会を企画・実施した。
- ・就労スキル向上のために、講座を企画し、『労働保険に関する研修会』『履歴書の記入の仕方について学ぶ』等を実施した。また、外部研修『1/30 JST (ジョブスキルトレーニング)』(主催:就業センター)や『9/22 就職活動支援セミナー』(和歌山県経営者協会)に参加した。『3/3 語りべ研修』(西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会)では、利用者が語りべとして発表を行った。
- ・場面緘黙症等で感情や思いを表現しづらい利用者の心理分析や日々の精神状態・感情の把握等に役立てるため、支援員がカラーセラピー講座を受講し面談等の際に活用した。

就労継続 B 型

- ・所内作業として、工賃アップ及び作業スキル向上の取り組みとして、バスマットタイル圧着作業を請け負い、年間 100 万円を超える収益となってきた。
- ・給食センターが就職等により就労移行利用者が減少し、就労移行単独で運営することが難しくなってきたため、B 型利用者で将来的に就労を希望する利用者が 5 名程度か

かわることとした。

- ・施設外就労として「上富田スポーツセンタートイレ清掃」「パルコ 21 ゴルフボール補充作業」「紀伊民報の帯かけ作業」「JA 紀南梅の種抜き作業」を行った。年度途中で JA 紀南の作業については、梅の収穫量の減少から中断となった。年度末には、委託元と委託料の値上げ交渉を行い、来年度は時給 500 円で請け負えることとなった。
- ・自主製品『りさいくる手作りめも帳』の用紙（印刷で出た裏紙や端紙）を印刷会社様 2 社の協力を得て提供していただけることとなった。その結果、供給量も増え、地域バザーや共同受注（県火災予防啓発物品等）、法人内 3 ケ所の売店で扱って頂けることとなった。10 月以降 4 万円弱の売り上げとなっている。また、かかわれる利用者が徐々に増え、現在 10 人弱の利用者がかかわっている。パッケージやデザインの改良により品質も徐々に向上してきている。
- ・ヤーヤーまつり（田辺市）・ふれあい文化祭（田辺市）・たな博（田辺市）でのバザー出店を行った。たな博では、初めて『射的』を行ったが予想以上の売れ行きとなり、総額 10 万円を超える収益となった。
- ・今年度の退所者 3 名の内、2 名が A 型事業所に移り、1 名が死亡により退所。年度途中より利用者の入院等での長期欠席も増えてきている。3 月末現在、3 名が入院（精神科 2 名、循環器科 1 名）となっている。

②生活支援活動

- ・自治会活動を支援し、自治会役員を中心にレクリエーション等の企画の立案・実施・会計等が行えるようサポートした。
- ・土曜開所（6 回）を実施し、余暇支援に努めた。
- ・健康診断を年 1 回行い、精密検査等が必要な利用者については。家族等と連携しながら受診同行を行う等、健康管理の支援に努めた。
- ・防災訓練を年 2 回（11 月・3 月）実施し、消火器の扱い方講習や消火訓練、三栖地区の避難所見学（三栖小学校・衣笠中学校・三栖コミュニティーセンター）を行い防災意識を高められるように努めた。
- ・公共交通機関のアクセスが悪いため、自力通所が困難な利用者については送迎支援を実施した。午前 4 便、午後 4 便の送迎体制で煩雑になってきている。

③個別支援関係

- ・利用者の希望やニーズ把握に努め、個別支援計画を作成し支援に当たった。定期的に支援の見直しを行った。必要に応じて家庭訪問を実施し、家族の意見の聴取にも努めた。
- ・必要な利用者に対して受診同行や服薬管理支援を行った。

- ・必要な利用者に対して原付免許の取得支援を行った。(3名)
- ・A型事業所の利用を希望する利用者には、見学の同行や利用の調整を行った。(あゆみ福祉農園1名、あゆみ福祉販売所 目良店1名)
- ・介護保険サービスが必要な利用者については、介護保険の申請やサービス利用調整等を行った。(デイサービス1名)

3. 地域交流・地域貢献活動

- ・毎年、地域交流活動として大谷分館作品展と共同開催していた大谷文化祭は、作品展の規模縮小による朝来公民館移転により開催できなかった。
- ・バザー活動(4ヶ所)を行い、地域交流・地域啓発に努めた。
- ・他法人や地域の保育所等にバザー物品の貸し出しを行い有効活用して頂いた。

4. その他の活動

- ・隔週水曜日は南紀の台ホームの夜間支援のバックアップを行った。
- ・家族懇談会(3/10)を開催し、5名の保護者に参加いただいた。家族としての意見を作業所運営に生かす良い機会となった。
- ・はまゆう支援学校高等部3年生2名(男性2名)を就業体験で受け入れた。
- ・紀南看護専門学校3年生34名を精神科看護実習で受け入れた。
- ・西牟婁自立支援協議会 就労支援部会に加盟し、地域バザーへの協力や研修等への参加を行った。
- ・和歌山県社会就労センター協議会及び和歌山県セルフセンターに加盟し、職員研修や授産事業の活性化に努めた。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	お花見(白浜町平草原) 紀南看護学校看護実習5名	10月	スポレク(大屋体育センター) 精神障害者バレーボール大会(和歌山市) 紀南看護学校看護実習6名
5月	紀南看護学校看護実習6名	11月	運動会&食事会(三栖小学校・丸長) 一泊旅行(大阪府) 防災訓練『消火訓練・煙体験』 紀南看護学校看護実習5名

6月	イオンモールレク（泉南市） はまゆう支援学校3年生就業体験2名 紀南看護学校看護実習6名	12月	忘年会 ボウリング&食事 （ジストボウル田辺・銀しろ）
7月		1月	初詣&喫茶（闘鶏神社・和の香他） 映画鑑賞会（ジストシネマ田辺） やおき福祉会新年会（ビッグU） 図書館レク（ビッグU）
8月	ヤーヤー祭りバザー出店（田辺市） 精神保健福祉現場実習1名	2月	観梅（みなべ梅林） ふれあい文化祭（田辺市）
9月	流しそうめん交流会（上富田町） 図書館レク（ビッグU） 空の日フェスタ（白浜町） 紀南看護学校看護実習6名 精神保健福祉現場実習1名	3月	健康診断（白浜はまゆう病院） 家族懇談会 たな博バザー（ビッグU） 年度末食事会（マリオットホテル南紀白浜） 防災訓練『三栖地区避難所見学他』

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	29年4月	30年3月	29年4月	30年3月
定員	10人	10人	24人	24人
実利用者数	9人	7人	30人	29人
1日平均利用者数	8.17人	6.04人	20.38人	20.09人
職員常勤換算配置数 ※重複掲載あり	2.9人	2.9人	6.8人	6.8人
年間稼働日数	総稼働日数 294日	休日開所日数 52日	総稼働日数 249日	休日開所日数 5日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）	科目	収入（円）
	給食事業	6,503,840	受託作業	2,770,347
	職場実習	464,004	内職作業	686,721
	内職作業	389,398	物品販売・バザー	337,650
	物品販売・バザー	159,641	自主製品	38,637
	受託作業	30,000	その他	13,500
	計	7,546,883	計	3,846,855
工賃実績（一人当たり）	当初目標 なし	実績 25,426円	当初目標 10,740円	実績 11,211円

		(時給 262 円)		(時給 196 円)

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	3	12	2	8	4	3	32
女	0	0	2	4	4	2	12
計	3	12	4	12	8	5	44

【グループホーム：介護サービス包括型】

ゆうあいホーム

1. 運営概況

29年度は一室空きがある状態で新年度が始まり、更に年度途中で二名の利用者が退所され、この二名の内一名の方は認知症の症状が悪化してしまい、全介護状態に近い状態

となったので、これ以上の生活支援が難しいとの判断となり高齢者施設に入所された。また

た、もう1名の方は自立生活を希望され、年度途中での退所となった。

基本的にゆうあいホームは地域（病院、行政等）からの空き部屋状況の問い合わせが常

に有り、今回も一時的に三部屋の空きが出たが、直ぐに二名の入所が決まり、残りの一部

屋も三月に契約が決まり、29年度はゆうあいホームの本体の部分では満室の状況で終える事が出来た。但し今後二、三年以内には更に入居者の高齢化または二次疾患（糖尿病、変形膝関節症等）の発病で、現在のゆうあいホームのハード面及び体制面の両面から見ても支援の継続が困難になる事が十分に予想されるので、今後の方向性としては上記の課題について継続して協議していく必要がある。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・毎週水曜日の夜に館内清掃を行ってきたが、利用者の高齢化に伴い、各自の体力面で
の負担が大きくなってきていたので、館内清掃の頻度を隔週とし、館内清掃がない週
は自治会を行い、その中でメンバーが主体となって日々の活動について話し合い、
また SST（社会生活技能訓練）を行う事で、あいさつや掃除など日常の生活能力を
維持出来るように支援を行った。
- ・土日などはメンバーの余暇支援として、釣りに出掛けたり、館内でカラオケや卓球
を定期的に行い、メンバー同士の交流の場を設けた。

②個別支援関係

- ・高齢化及び重度化等で金銭管理や服薬管理等の個別のかかわりが必要な利用者が増
加しており、29年度はゆうあいホーム、すてっぷはうすの計23名の利用者の内、
22名に対して金銭管理及び服薬管理の個別支援を行った。
- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サ
ービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サ
ービスの提供を行った。

3. 地域交流活動

29年度ものぞみ園、希望の木、ふたば福祉会、陽だまりと連携してやおき夏祭りを
開催し、総数で約350名以上の方が参加され、近隣住民（たきない町、南紀の台）
や学生（熊野高校）ボランティアとの交流を深める事が出来た。

4. 事業活動内容

I. **障害者当事者活動支援**

(ア) たきない福祉祭り

場 所：ゆうあいホーム駐車場

日 程：平成 29 年 8 月 19 日（土）18：00～20：00

参加人数：300 人

経 費：183,884 円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	119,343 円	材料費
その他の費用支出	54,960 円	電気設備費
保険料	5,000 円	傷害、賠償保険
水道光熱水費	581 円	電気、ガス、水道代
印刷製本費	2,000 円	コピー代
通信運搬費	2,000 円	電話、郵送代

(イ) クッキング講座

場 所：田辺市民総合センター・料理実習室（4F）

日 程：平成 30 年 1 月 23 日（土）

講 師：中田みどり・勝股弘子

参加人数：25 人

経 費：36,941 円

内 訳	金 額	内 容
その他費用支出	11,138 円	講師謝金 10,000+源泉 1,138
その他費用支出	24,603 円	材料費
印刷製本費	500 円	コピー代
賃借料	700 円	駐車場代

(ウ) クッキング講座②

場 所：田辺市民総合センター・料理実習室（4F）

日 程：平成 30 年 3 月 24 日（土）

講 師：中田みどり・勝股弘子

参加人数：18 人

経 費：31,174 円

内 訳	金 額	内 容
その他費用支出	11,138 円	講師謝金 10,000+源泉 1,138
その他費用支出	18,736 円	材料費
印刷製本費	500 円	コピー代

賃借料	800 円	駐車場代
-----	-------	------

小計 251,999 円

II. 障害者ボランティア育成

(ア) 障害者との地域啓発・体験交流会

①場 所:和歌山県立情報交流センター・ビッグU 研修室 2

日 程:平成 30 年 2 月 23 日 (金)

講 師:松原卓氏

内 容:障害福祉の視点から市民全体を見つめ考える

参加人数:17 名

経 費:48,001 円

内 訳	金 額	内 容
その他費用支出	33,411 円	講師謝金 30,000+源泉 3,411
印刷製本費	10,180 円	垂れ幕代、コピー代
賃借料	4,410 円	会場費

小計 48,001 円

III. 障害者ボランティア団体活動支援

(ア) 親子サークル「カンガとルー」活動支援

日 程:平成 29 年 6 月 13 日 (火)

平成 29 年 7 月 11 日 (火)

平成 29 年 8 月 8 日 (火)

平成 29 年 9 月 12 日 (火)

平成 29 年 10 月 10 日 (火)

平成 29 年 11 月 14 日 (火)

平成 29 年 12 月 12 日 (火)

平成 30 年 1 月 16 日 (火)

平成 30 年 2 月 13 日 (火)

平成 30 年 3 月 13 日 (火)

場 所:トモジャズダンススタジオ

講 師:廣田智子氏

内 容:ダンス教室

参加人数:延べ 154 名 (平均 15 人)

経 費:200,000 円

内 訳	金 額	内 容
その他の費用支出	100,000 円	10,000×10 回（講師分）
その他の費用支出	50,000 円	5,000 円×10 回（アシスタント分）
賃貸料	50,000 円	5,000 円×10 回（会場費）

小計 200,000 円

合計 500,000 円

5. その他の活動

29年度も陽だまり、ハモニティー、やおき工房と連携してソフトバレーボールチームを発足し、秋（11月）に開催された精神障害者ソフトバレーボール大会に参加して、前年の成績を上回る三位の成績を残す事が出来た。

6. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	ドライブ、カラオケ、釣り	
5月	ボウリング、ドライブ	
6月	防災訓練、買い物支援	
7月	BBQ、ドライブ	
8月	大掃除、やおき祭り、大塔夏祭り	
9月	空の日フェスタ、釣り	
10月	外食、ドライブ	
11月	ソフトバレー大会、グラウンドゴルフ大会	
12月	大掃除、クリスマス会、忘年会	
1月	初詣、外食、ドライブ	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月	健康診断、忘年度会、保護者懇談会	

7. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム		すてっぷはうす	
定員	29年4月 20人	30年3月 20人	29年4月 6人	30年3月 6人

実利用者数	29年4月 19人	30年3月 20人	29年4月 5人	30年3月 5人
職員常勤換算配置数	29年4月 5.4人	30年3月 5.8人	29年4月 1.5人	30年3月 1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	3人 2人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	9人	田辺市	3人
	白浜町	1人	白浜町	人
	みなべ町	2人	みなべ町	1人
	上富田町	2人	上富田町	人
	すさみ町	1人	すさみ町	人
	その他	4人	その他	1人

【ホームヘルプサービス】

訪問介護支援センター

1. 運営概況

これまでも慢性的なヘルパー不足は解消してこなかったが、29年度は更に1名のヘルパーが退職となり、もう1名のヘルパーも週1回勤務のパート契約となった事で、早急なヘルパーの雇い入れ、または利用者数名を他事業所へ転籍も実施しないと、現状の体制では、ヘルパーの人数が足らずにシフトも組めない可能性が高いので、次年度の課題としては、数名の利用者から了承をもらった時点で、早急に転籍を実施していき段階的な事業規模の縮小を実施する必要がある。

2. 事業報告

①身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

②家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物をを行った。

③通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥個別支援関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
利用者数	29年4月 40人	30年3月 36人	自立支援 32人	介護保険 4人

登録ヘルパー数	28年4月 9人	29年3月 9人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	4人 4人		
	休 止 中	4人		
利用市町村内訳	田辺市	30人	田辺市	29人
	白浜町	4人	白浜町	5人
	みなべ町	6人	みなべ町	2人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

【就労継続支援 B 型事業所】

陽だまり

1. 運営概況

29年度は4名が退所した後に4名の入所があったので、登録人数29名からは変動がなかった。また、作業面では複数の作業（袋入れ、組み立て、農園等）を取り入れ、メンバーの状態に合わせて関わられる作業を増やした。これまではメンバーがやり慣れた作業も必要という事で箱折りやシール貼りの作業を中心に行ってきたが、一個当たりの単価が極端に安い（シール一枚につき0.5銭）などの理由で、それらの作業の受託契約を両者合意の下で終了とした。

また、新たに農園作業についてはF-1種ではなく、固定種（古来種）を用いて野菜作りを行い、SNS上を中心に野菜の観察日記を定期的に配信し、そこで集まったサポーター（お客様）に対して、固定種野菜の販売を行った。

但し、天候によって生育に影響が出過ぎる品種（なす、ピーマン等）などもあったので次年度の課題としては、生育力の強いハーブ茶（沖縄の原種）やオクラ、キヌサヤ

などを中心に、新たな品種の作付けにもチャレンジしながら、同時に固定種の種も採取し、毎年の畑作業にその種を役立てていく。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労希望のメンバーに対しては、基本的に就労移行支援を行っている、やおき工房やすまいるに繋ぎ、法人外希望の利用者に対してはA型事業所等へ紹介し、メンバーがステップアップ出来るように支援を行った。

②生活支援活動

- ・挨拶の練習や着替え洗顔などADL（日常生活動作能力）向上に繋がるよう支援を行った。
- ・自力で出来る事が増えるように、通所支援（バス、自転車の練習）を行った。

③個別支援関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・ふたば福祉会、のぞみ園、希望の木、ゆうあいホームと連携し、前年に引き続きやおき夏祭りを開催して、たきない町や南紀の台の住民の方々、または学生ボランティア

ア

として熊野高校の学生が多数参加され、利用者、職員、利用者家族も含め三年連続で

総勢350名を超える参加者となり、地域（たきない町、南紀の台）の夏の恒例行事

として認知されるようになった。

4. その他の活動

・土日や祝祭日など休みが来る度に、夜更かしなどして生活リズムが乱れて調子を崩すメンバー多く、また、メンバーからも休みの日は時間を持って余して何をしたら良いか分からずに困っているとの相談が開所当初（7年前）から非常に多くあったので、29年度は月一回の休日開所（土曜日）を毎月行い、調理実習などの余暇支援を行った。

・クラブ活動に力を入れ、陽だまりではソフトバレーボール、農業、釣りクラブがあり各クラブが成果を出せるように日々切磋琢磨しており、29年度のソフトバレーボール大会（県主催）では前年（4位）より好成績を残し、順位も3位になる事が出

来

た。この結果についてメンバーも大喜びで、来年は「優勝」を目標に掲げている。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見(平草原)・DVD鑑賞(レク)	
5月	パビリオンフェイ、釣り	
6月	紫陽花鑑賞(平草原)、外食(焼肉)	
7月	納涼会(素麺・寿司・かき氷)、釣り	
8月	やおき夏祭り、外食(和食)	
9月	和歌山イオンモール、誕生日会	
10月	BBQ、カラオケ	
11月	外食(スイーツ&バイキング)、バレー大会	
12月	USJ(一泊旅行)、クリスマス会・忘年会	
1月	初詣&外食、20周年式典	
2月	みなべ梅林観梅、カラオケ	
3月	忘年度会、ちゃんこ鍋パーティ	

6. 数値実績

事業種別	(例) 就労移行支援		就労継続支援B型	
	定員			29年4月 20人
実利用者数			29年4月 28人	30年3月 29人
1日平均利用者数			29年4月 21人	30年3月 21.7人
職員常勤換算配置数			29年4月 4.1人	30年3月 4.1人
年間稼働日数			総稼働日数 250日	休日開所日数 10日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
			商品売上	273,458
			農園売上	42,300
			受託作業	2,229,497
			雑収入	97,127
	計			2,642,382円
工賃実績(月一人当たり)	当初目標 円	実績 円	当初目標 5,500円	実績 7,574円

7. 利用者の年齢層

年代別表	20代	30代	40代	50代	60代	
男性	1名	1名	5名	4名	3名	14名
女性	3名		5名	6名	1名	15名
計	4名	1名	10名	10名	4名	29名

【就労継続支援 B 型事業所】

ハモニティー

1. 運営概況

平成 29 年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 25 名でスタートする。1 年間での新規利用者数は 3 名で、退所者数は 3 名であった。

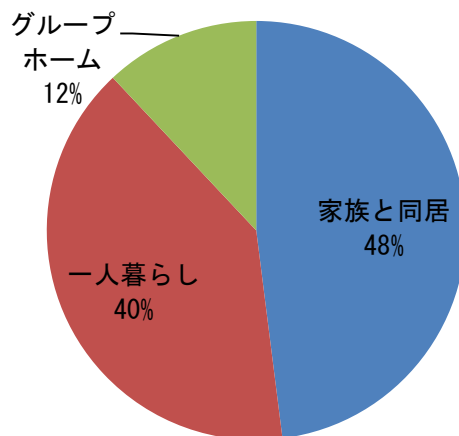
① 性別・年代別(平成 30 年 3 月末日時点)

	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	合計
男	0	4	7	4	3	18 名
女	0	2	2	0	3	7 名
合計	0	5	10	4	6	25 名

② 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	19 名
知的障害	5 名
身体障害	1 名

③ 居住状況



家族と同居	12 名
一人暮らし	10 名
グループホーム	3 名

④ 利用実績(月別)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	-----	-----	-----

平均利用者数	19.8	19.7	19.0	19.9	20.2	22.1	20.6	21.6	22.5	22.0	19.8	19.6
開所日数	20日	20日	22日	20日	18日	20日	21日	20日	20日	18日	20日	21日

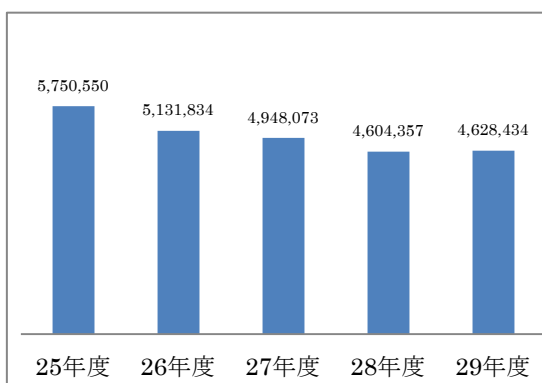
(年間平均 20.6人/月)

2. 事業報告

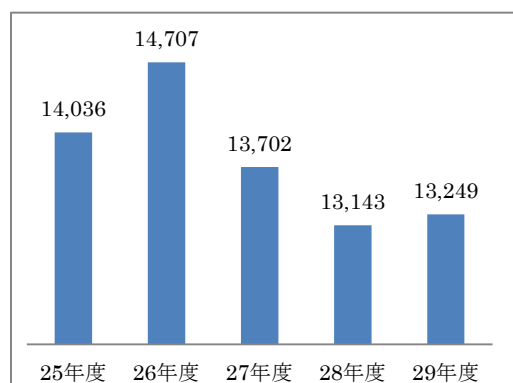
①就労支援活動

- ・自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
- ・受託作業(日用雑貨包装、電子部品パレット入れ、新聞帯封、売店)
- ・職場実習 ・野菜販売

(事業収入推移)



(平均工賃推移)



②生活支援活動

掃除や食器洗いを当番制において実施。掃除については、足腰が不自由になってきた利用者もいるため、職員がフォローしながら、すべての利用者が関われるよう日常生活訓練の位置づけとして継続してきた。

自治会活動においては、週1回の頻度で、レクリエーションや茶話会などを実施し利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。これまでなかった麻雀や将棋、人生ゲームなどボードゲームを取り入れることにより、これまでレクへの参加がなかった利用者も興味をもってもらえ楽しんでもらえる機会となっている。また、利用者の体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも定期的実施してきた。

③個別支援関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週1回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的実施してきた。

新規利用希望者については、ゆめふるやこころの医療センターと連携しながら、見学や体験利用の受け入れをおこなってきた。

また、単身生活者が多い状況のなかで、日常生活の様子について把握に努めながら、衛生面や食生活についての助言、サービスについての情報提供、関係機関との連携をお

こなってきた。介護保険サービスと併用利用されている利用者については、地域包括支援センターや訪問介護事業所と連携を図り、定期的なケア会議にも参加してきた。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてこられる。

4. その他の活動

文里自主防災会主催の地域合同避難訓練に参加、非常災害に備える貴重な訓練の機会となった。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	6	桜花見	島ノ瀬ダム
	13	買い物	ユニクロ・セリア・パピシ
	20	釣り	文里湾
5	11	買い物	ユニクロ・セリア・パピシ
	18	釣り／公園	文里湾／新庄公園
6	1	外食	とれとれ亭
	8	釣り／カラオケ	芳養堤防／メロディーホール
	15	買い物	パピシ・ユニクロ
	22	スポレク	大屋体育館
7	6	流しそうめん・お寿司	総合センター 文里湾／メロディーホール 近露方面
	10	動機づけ研修	
	13	釣り、カラオケ	
	20	ドライブ	
	27	夏季賞与支給	
8	3	釣り／カラオケ	芳養堤防／メロディーホール
	10	夕涼み会	ハモニティー駐車場にて BBQ
	17	買い物	パピシ・ユニクロ
	31	スポレク／DVD鑑賞	大屋体育館
9	7	外食・買い物	八十八家・パピシ・ユニクロ
	14	ブドウ狩り	紀南観光ぶどう園
	21	釣り／カラオケ	芳養堤防、メロディーホール
10	2	赤い羽根募金	グルメ明洋店
	5	釣り／カラオケ	文里湾／メロディーホール
	12	買い物	ユニクロ・パピシ
	19	火災避難訓練	防災学習・避難訓練・初期消火訓練
	27	メンバー1泊旅行	那智・勝浦
27	〃	〃	
11	2	バッテリーセンター／釣り	市ノ瀬／芳養堤防
	9	買い物	ユニクロ・パピシ
	24	安全運転管理者講習	
	30	紅葉ドライブ	奇絶峡

1 2	7	カラオケ・ボードゲーム	メロディーホール
	8	買い物	パビシ・ユニクロ
	21	クリスマス会	
	21	利用者賞与支給	
	28	利用者忘年会	かんぽの宿
1	5	初詣	鬮鶏神社
	11	買い物	パビシ
	18	ボードゲーム／カラオケ	メロディーホール
	25	茶話会	おしるこつくり
	26	やおき新年会	Big-U
2	1	買い物	パビシ
	8	ボードゲーム	
	15	観梅	みなべ梅林
	17	ふれあい文化祭	ハナヨアリーナ
	22	火災避難訓練	防災学習・避難訓練・初期消火訓練
	25	田辺市町内会南部ブロック 合同防災訓練	大津波避難訓練
3	1	外食	和わ
	2	利用者健康診断	白浜はまゆう病院
	8	いちご狩り	リコリーナ
	9	利用者健康診断	白浜はまゆう病院
	15	買い物	パビシ
	17	保護者懇談会	
	22	ボードゲーム	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	29年4月	30年3月
定員	20人	20人
実利用者数	25人	25人
1日平均利用者数	19.8人	19.6人
職員常勤換算配置数	4.8人	4.8人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	240日	1日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	3,135,163
	印刷事業	586,756
	古紙等リサイクル事業	438,511
	製菓自主製品事業	191,232
	野菜販売、バザー等	276,772

		計 4,628,434 円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 月額 15,000 円	実績 月額 13,249 円

【障害者就業・生活支援センター事業】

紀南障害者就業・生活支援センター

1. 運営概況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行ってまいりました。

2. 事業報告

例年通り、当初計画と当事者のニーズに沿って就業・生活支援を行ってまいりました。長期化しているケースでは、高齢化による能力低下がみられる当事者への就労・生活支援については現状を維持できるよう定期的な職場訪問と生活支援、企業協力により安定を図っています。

手帳未取得状態での初期相談者の障害受容支援については難航している状態であり、手帳取得後の就労支援も、当事者のニーズと実際に携われる業務とのギャップが大きかったり、地方ならではの業種の少なさにより長期的な訓練（待機）をしなければならない状態の方が増えています。長期的な訓練（待機）に対応できた方々については過去実績からも安定傾向であります。金銭的な問題等による早期就労希望者については離職・実習での終了となっていることがあります。この方々の特性としては当センター相談来所以前に就職していても短期での雇用契約解除が多く、長期でも短時間パートといった雇用の状態となっていました。障害部分だけを見ると軽度のため、一般就労時はかなり苦勞されてきたようです。また、生活面でも家族が高齢というパターンも多く、短時間の収入では今後の生活が維持できない、障害が軽度のため年金も取得できない状態です。

次年度の障害者雇用率の増に向けて関係企業より雇用についての相談も増加していますが当事者ニーズと異なる業種・就労条件のためマッチングが上手くいかないことも案件として残っています。

① 就労支援活動

- 1) 就職に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）

- ・体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援

2) 求職支援活動

- ・ハローワークへの同行等による求人検索
- ・地域新聞等広報紙による求人への相談と対応
- ・独自の企業開拓

3) 職場定着支援

- ・ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）
- ・就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問
- ・職場、生活面での相談対応

4) 事業所に対する障がい者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言 【4/5】【6/13】

5) 関係機関との連絡調整・会議

- ・運営協議会の開催【3/7】
- ・和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議
【5/26】【10/25】【2/9】【3/28 予定】
- ・特別支援学校連絡会【6/8】【8/2】
- ・ハローワークとの連絡会議【6/15】【3/15 予定】
- ・全国就業支援 NW 定例研究会参加【6/9～6/10】
- ・近畿ブロック経験交流会【11/15】
- ・西牟婁圏域自立支援協議会就労部会活動
【5/22】【3/2】【3/3】【3/7】
 - (1)圏域内就労移行事業所 4 カ所との連携会議【毎月 1 回 指定曜日】
 - (2)圏域内他法人間でのジョブコーチ支援【毎月第 4 月曜日】
- ・和歌山県障害者職業センターとの連携（月 1 回・職業評価、拡大ケース会議）
- ・和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）
- ・各研修会学習会への職員派遣
- ・就労移行支援事業所利用者と支援員に対する JST（ジョブスキルトレーニング）
【12/12】【1/30】

6) 先進地視察

- ・徳島県（社会福祉法人 愛育会 就労移行支援事業所なごみ、就業・生活支援センター わーくわく、関係企業）
- ・大阪府（NPO 法人 JSN 就労移行事業所、関係企業）

② 生活支援活動

1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言

- ・医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
- 2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
 - ・行政手続き補助および代行
 - ・ワーカーズクラブの活動補助
- 3) 関係機関との連絡調整・会議
 - ・全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会
- ③ 個別支援関係
 - 1) ジョブコーチ支援の実施【毎月第4月曜日】【随時】
 - 2) A型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
 - 3) B型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
 - 4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】
- ④ 余暇活動支援
 - 1) 職場定着者促進のための在職者交流活動
 - ワーカーズクラブ活動補助

3. 地域交流等活動

- ①地域交流活動
- ②地域貢献（公益）活動

4. 行事報告

ワーカーズ活動

月	行事	備考
6月	他法人との在職者交流（ソフトボール）	11名
7月	BBQ	46名
9月	研修（SNS研修）	37名
10月	1泊旅行	54名
11月	他法人との在職者交流（ソフトボール）	12名
12月	忘年会	54名
2月	研修（交通安全、避難訓練）	36名

毎月第一火曜日 ワーカーズ会議（12回開催 平均参加者 39名）

毎週木曜日 ワーカーズ運動（38回 平均参加者 14名）

他法人就労メンバーとの交流会（6/4、11/12）

5. 数値実績

登録者数 218名（内新規43名） 相談・支援件数 8,561件

職場実習・職業準備訓練 48件 就職者数 33名

【田辺市地域活動支援センター事業】

紀南地域活動支援センター（Ⅲ型）

1. 運営概要

例年通り田辺市より委託を受け施設通所になじまない方々の場所として活動をおこなってきた。

2. 事業報告

①就労支援活動

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。ルアー削り・缶バッジ制作などを行い、3ヶ月に一度のイベントなどにも取組み、所属感の向上を図った。

また、希望者については職場実習として請負清掃作業への斡旋、就職希望の方への就労支援も行い、29年度は、一般就職者は5名（2名退職）となっている。

②生活支援活動

レクレーション活動を通じて調理実習、外出活動を行ってきた。

③個別支援活動

受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

3. 地域交流活動

特に無し

4. その他の活動

特に無し

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
---	-----	---	-----

4月	スポレク（高雄中）	10月	スポレク（高雄中）
5月	スポレク（高雄中）	11月	スポレク（高雄中）
6月	スポレク（高雄中・上秋津） 調理実習（たこやき）	12月	スポレク（高雄中） 大掃除・餅つき
7月	スポレク（高雄中・上秋津）	1月	スポレク（高雄中） 餅つき
8月	スポレク（高雄中・上秋津）	2月	スポレク（高雄中） 遠足（観梅）
9月	スポレク（高雄中・上秋津）	3月	スポレク（高雄中）

6. 数値実績

（ア）月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	18	17	17	17	18	19
開所日数	20	20	22	20	19	20
平均利用者数	11	11.25	10.77	11.10	11.84	10.30

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	16	16	16	16	17	17
開所日数	21	20	20	19	19	20
平均利用者数	9.90	9.15	9.21	8.05	8.21	10.6

（イ）市町別（3月末）

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
17人	1人	2人	0人	0人

（ロ）障害別（3月末）

知的	精神	身体	発達	その他
8人	12人	0人	0人	0人

（ハ）年齢別（3月末）

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
1人	8人	3人	5人	3人	0人

(二) その他

【グループホーム】

サンヒルズ

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）

サンヒルズを主とし定員26名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

レモンの増設により定員を2名増として26名定員とし運営を行った。この際に土日祝の支援強化を行い、生活指導を主としての世話人職員を配置。

世話人の配置については夜間の短時間支援と分けて、日中の支援についてはバックアップ施設として就業・生活支援センター職員とジョブコーチが就業場所への訪問を行った。就業定着支援の一環として生活支援・指導も行い早期の問題解決に努めた。このため、緊急対応については、常勤職員の配置されている就業・生活支援センター職員への負担が大きくなっている。

2名の退所者については、長期にわたる精神的不調から、単身生活移行（帰省）となり出身地である新宮市の相談事業所への引継ぎを行っている（1名）。もう1名についてはホーム生活に馴染めず自宅での家族との生活に戻った。

今期の特色としては家族不和によるグループホーム生活希望者の受け入れが数件あったが、結局は共同生活への適応ができず単身生活する財力も乏しいため自宅へ戻っていくことがあった。現利用者にも休日はグループホーム生活より自宅の方での生活時間長い方がおられる。高齢化に伴う相談と実支援についても昨年同様継続している。昨年度の案件であった、知的障がい者の方の生活能力低下（食事・健康・清潔保持・伝達など）に対し支援手法の対応について改めて検討が必要になってきている状態である。29年度は巡回対応を強化し問題の早期対応に努めたが今後も継続が必要であり、個々の利用者への個別対応、支援の質について考えさせられた。

①生活支援活動

やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事 他）

医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

②個別支援関係

就職相談・定着相談・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への加入はしている）

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎週木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月		
9月	ソーシャルネットワーク講座	
10月	ワーカーズ旅行（兵庫県）	
11月		
12月	ワーカーズ忘年会	
1月		
2月	交通安全研修会	
3月	防災・避難訓練、当事者会議	

6. 数値実績

ホーム名	サンヒルズ（全体）			
定員	29年4月 24人	30年3月 26人		
実利用者数	29年4月 21人	30年3月 22人		
職員常勤換算配置数	29年4月 6人	30年3月 6、5人		
年度中の入退所	入	所	4人	

	退 所	2人		
利用市町村内訳	田辺市	8人		
	白浜町	1人		
	みなべ町	2人		
	上富田町	2人		
	すさみ町	1人		
	その他	8人		

【就労継続支援B型事業所】

古道ヶ丘

1. 運営概況

・前年度より力を入れてきた山菜とりお茶摘みと季節に応じた作業を取り入れ地域バザーにも参加することができた。内職作業（かげろうの箱折）も定期的な納品にあわせみなさんが作業に従事することができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

田辺市委託事業

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなう）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）
 保養所設備の老朽化において田辺市と協議を行う中で昨年度はバンガローに水を補給している給水ポンプの改修に向けて話し合い平成30年度の田辺市の改修予算として計上してもらえるよう調整をおこなった。（予算として120万円程度）
- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）
 鳥獣被害を防ぐため周りをネットで囲み、実の確保を試み一昨年よりは収入が増えたが害虫の影響か、ブルーベリー自体の問題か全盛期の収穫には及ばなかった。今後もプロの指導も得ながら苗自体の購入も視野に入れていく。

授産事業

- ・高齢化が進む中で参加できる作業としてかげろうの箱折り作業が中心であるが独自の授産製品づくりにも力をいれていくように地域のものづくりに目を向けた一年だった。

②生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③個別支援関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。

- ・SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、基本的（礼儀作法など）なものを中心に行った。新職員が外部で主催される SST 研修に参加し、ファーストレベルの資格を取得した。

3. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校 4 年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・町民運動会に参加し、地域との交流を深めた。今年度も参加予定。
- ・地域の祭り（近露まるかじり体験、ふれあい文化祭など）に参加した。

4. その他の活動

市長が施設を訪問してくださり、利用者と作業を一緒におこないその後、利用者からの質問にも答えてくれた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4 月	花見	
5 月	バザー	
6 月	防災訓練	
7 月		
8 月		
9 月	バーベキュー	
10 月	おつかれさま会	
11 月	ソフトボール大会	
12 月	一泊旅行、クリスマス会	
1 月	班別レク	
2 月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3 月		

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
定員	29 年 4 月 30 人	30 年 3 月 30 人

実利用者数	29年4月 30人	30年3月 27人
1日平均利用者数	29年4月 25.5人	30年3月 24.2人
職員常勤換算配置数	29年4月 5.6人	30年3月 4人
年間稼働日数	総稼働日数 247日	休日開所日数 8日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	3,780,098円
	内職作業	513,620円
	アルミ缶回収など	352,907円
	計	4,646,625円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 15,000円	実績 10,323円

7. 利用者の年齢層

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	1	4	2	1	3	11
女	2	3	3	2	6	0	16
計	2	4	6	4	7	3	27

【就労継続支援 B 型事業所】

本宮くまのこ作業所

1. 運営概況

近隣バザーや本宮町内の行事等に積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流を図った。昨年同様に休日開所を古道ヶ丘と合同で行い、参加しやすい行事を実施することで、利用者の参加意欲を促進し給付費増を図った。また可能な限り利用者の予定に合わせた送迎体制を組むことで通所しやすい環境を整えた。諸事情により欠席が続いている利用者に対しては定期的に訪問等を実施して、通所につなげることができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

箱折り、茶葉選別、野外作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力を入れた。箱折り作業では目標枚数を設定して、作業に対するモチベーションの増加を図った。また作業の苦手な人に対しては作業の分業制を取り入れて、作業効率の向上や作業に参加しやすい環境を整えた。

②生活支援活動

年 1 回の健康診断を実施。
体重管理の苦手な人に向けて作業前のウォーキングを実施。
防災計画に基づき年 2 回の防災訓練及び非常食体験実施。
季節ごとのレクリエーションを企画及び実施。

③個別支援関係

個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を実施。

3. 地域交流活動

本宮女性会の方々と本宮大社近くの花壇に花植えの実施。
 定期的にゆる体操を実施し、地域ボランティアの方々との交流。
 地域交流として、小中学校の発表会や身体障害者連盟の行事に参加。

4. その他の活動

本宮地域に事業所活動を周知する為、月1回「くまのこだより」を発行。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	古道レク（花見）	
5月	古道バイキング	
6月	古道バイキング・ボウリングレク	
7月	花植え・ドライブレク（白浜）	
8月	古道レク・大掃除・防災訓練	
9月	やおき釣り大会・古道ヶ丘合同 BBQ	
10月	古道バイキング・ソフトボール大会	
11月	町内音楽会・古道バイキング・こだま祭りバザー	
12月	父母の会合同クリスマス会・古道レク・花植え 古道合同クリスマス会・年末大掃除	
1月	初詣・フライングディスク大会・古道バイキング やおき新年会	
2月	ふれあい文化祭バザー・ボウリングレク 古道バイキング・健康診断	
3月	ドライブレク（紀和町）・防災訓練・花見レク	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	28年4月	29年3月
定員	10人	10人
実利用者数	12人	13人
1日平均利用者数	10人	10人
職員常勤換算配置数	28年4月	29年3月

	2.87 人	2.87 人
年間稼働日数	総稼働日数 255 日	休日開所日数 17 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	自販機	702,820
	受託作業 (清掃)	301,491
	内職 (箱折り・お茶)	268,720
	自主製品	44,100
	アルミ缶・古紙回収	120,396
	バザー・わされん活動	115,141
	計	1,552,668
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 7,000 円	実績 7,039 円

7. 利用者の年齢層

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	0	2	2	3	1	8
計	0	2	2	3	3	3	13

【グループホーム】

こどうの家・第2こどうの家

1. 運営概況

平日の動きは日中施設の古道ヶ丘・くまのこ作業所と連携し日々の動きを把握し体調面のケアに活かした。男子・女子の空き部屋に関して、地域の相談事業所等と連携し体験利用など積極的に空き部屋の利用調整を進めた。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食月火木金土曜日
(株)南陽食品との契約を継続し、食事提供をおこなった
- ・利用者の健康管理で、インフルエンザの予防接種を実施(11月)
- ・防災計画に基づく防災訓練(大雨等による洪水を想定)の実施(9月)
- ・緊急用防災品の備蓄の準備・防災リュックの配布
- ・年間で、8回の休日レクレーションを行った。
- ・休日の買い物支援をおこなった
- ・掃除や洗濯など日以上生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- ・病院への同行受診の実施
紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助をおこなった
- ・自治会の支援
毎月定期的実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援をおこなった

②個別支援関係

- ・日々の生活費の使い方などの助言や管理支援をおこなった

- ・服薬についての助言や管理の支援をおこなった
- ・個別支援計画の作成に努め利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した

3. 地域交流活動

- ・町内会への加入

4. その他の活動

- ・職員の直接処遇技術の向上のため、各種研修会に参加した

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	お花見（島ノ瀬ダム）	10月	高尾山ハイキング
5月	調理実習	11月	バッティングセンター
6月	カラオケ	12月	なし
7月	ボーリング	1月	新年会 鍋
8月	なし	2月	とれとれ市場散策
9月	外食レク 回転すし	3月	なし

6. 数値実績

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	29年4月	30年3月	29年4月	30年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	29年4月 4人	29年3月 5人	29年4月 4人	30年3月 4人
職員常勤換算配置数	29年4月 3.79人	30年3月 3.79人	28年4月 3.79人	29年3月 3.79人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	3人	田辺市	3人
	白浜町	人	白浜町	1人
	みなべ町	人	みなべ町	人
	上富田町	1人	上富田町	人
	那智勝浦町	人	那智勝浦町	1人
	その他	人	その他	人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	1	1	1	4
女	0	1	1	1	1	0	4
計	0	1	2	2	2	1	8

【就労継続支援 B 型事業所】

龍の里作業所

1. 運営概況

前年度に西出張所を閉鎖し、平成 29 年度からは本棟と柳瀬出張所の二カ所で目的別に作業を行っている。入退所による利用者の動きが大きく、年明けには 2 名の利用者が内科的疾患により急逝されるなど、非常に悲しい出来事が続いた。

2. 事業報告

①就労支援活動

授産活動では、道の駅などに卸していた自主製品の販売「よもぎの葉」「龍神杉のコースター」「クッキー類」の自主製品の販売が安定している。

便利屋や農産物の生産も地域の高齢化に伴うニーズの増加により、需要に対して供給が追いつかないこともあった。

下請け作業は取引業者の都合で途切れることも多かったが、他事業所の協力や後半の新規開拓により安定してきている。龍神マッシュ組合での施設外就労に参加する利用者が増え、工賃アップが見込めるようになってきた。

平均工賃の推移（月額）

26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
6,388 円	7,442 円	8,314 円	8,683 円

②生活支援活動

日々の生活課題や金銭管理などについては、社協や行政局と連携して制度の活用を進め、問題解決に努めた。

健康面で課題のある利用者に関しては毎月一回の健康相談を実施し、保健師の指導を受け、10 月には血管いきいき教室に参加し、栄養士による指導を受け、生活習慣の改善への対策を行った。

③個別支援関係

個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

④余暇活動支援

月一回程度のレクリエーションや仕事の閑散期にはドッジボール、ソフトボール大会への出場など積極的にスポーツへの取り組みを行った。

地域のイベントに参加するために阿波踊りや合唱の練習などを行い、文化活動を支援した。

3. 地域交流活動

地元では翔龍祭や地域のイベントに参加し、舞台発表では阿波踊りを披露、利用者自身が主体的に参加することができた。

4. その他の活動

避難訓練（年二回）を実施。

田辺市職員による防災学習の実施。

5. 行事報告

月	行事等	備考
4月	ハイキング（平草原公園）	
5月	ボウリング	
6月	避難訓練、カラオケ	
7月	健康診断（40歳以上）	
8月		
9月	高齢者交流会、グラウンドゴルフ大会	
10月	血管いきいき教室、買い物レク	
11月	わされん運動会、社協バスツアー（大阪方面）、翔龍祭	
12月	一泊旅行（伊勢志摩方面）、忘年会	
1月	もちつき、初詣（本宮大社）、やおき新年会	
2月	ふれあい文化祭、健康診断（39歳以下）	
3月	避難訓練、買い物レク（和歌山イオン）	

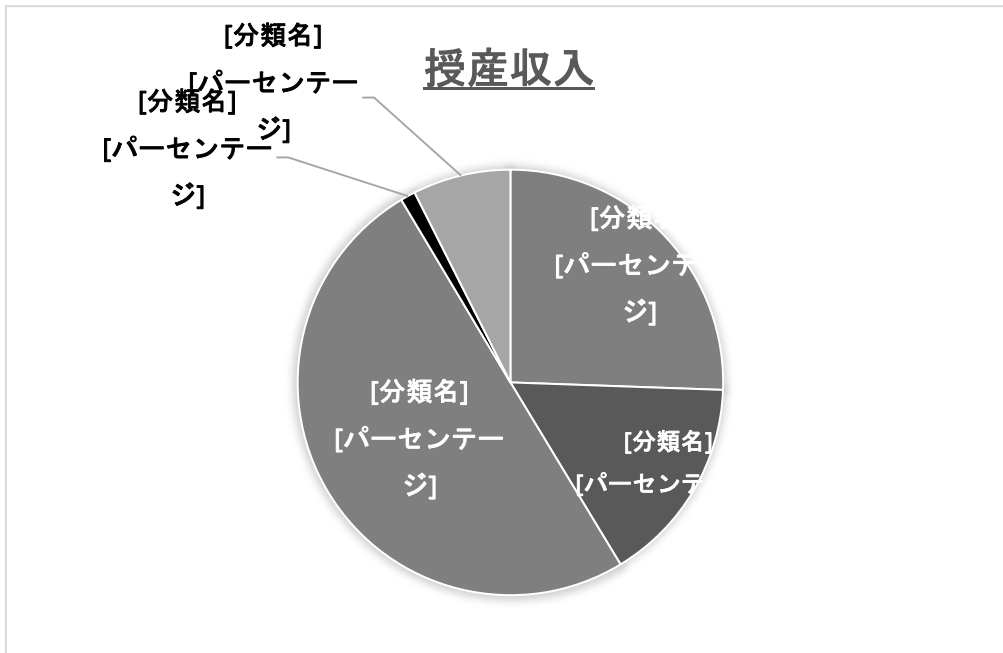
6. 数値実績

種別	就労継続支援B型	
定員	29年3月	30年3月

	20人	20人
実利用者数	29年3月 21人	30年3月 20人
1日平均利用者数	29年3月 16.4人	30年3月 16.6人
職員常勤換算配置数	29年3月 5.2人	30年3月 5.4人
年間稼働日数	237 休日開所日数 4日（うち振替3日）	237 休日開所日数 4日（うち振替3日）
工賃目標（一人当たり） 当初 10,000円	実績 8,683円（月額） 185円（時給）	

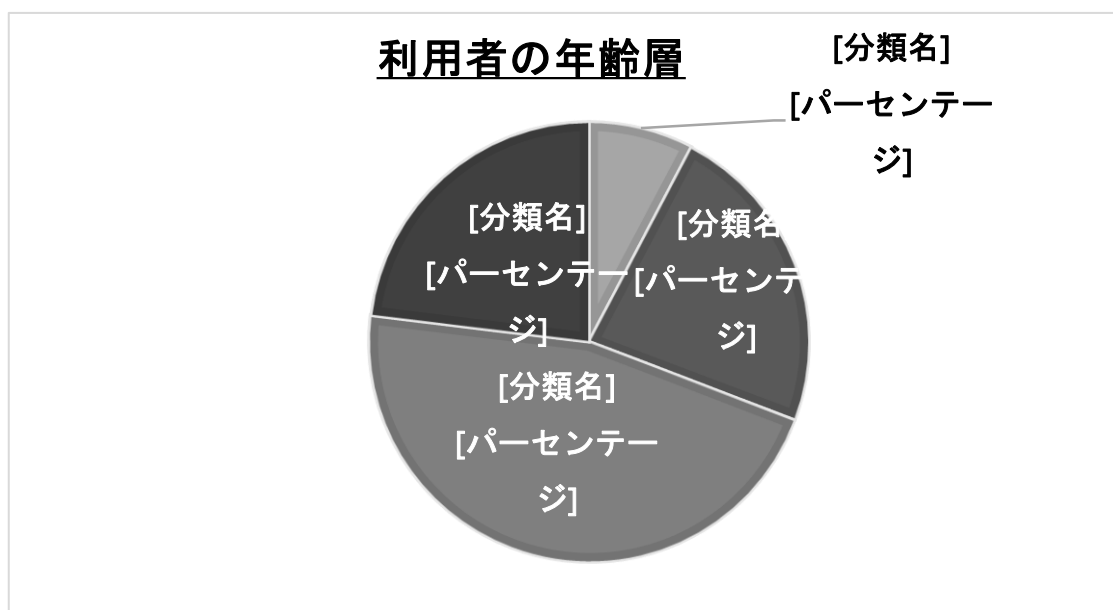
授産科目及び授産収入	科目		収入（円）
	自主製品	焼き菓子・パンの製造	580,802
		木工など	3,140
		龍神杉のコースター	47,360
		よもぎの葉	116,664
		アクリルたわし	23,002
		農作業	126,665
		その他	3,170
	小計		900,803
	下請け作業	ねじ袋詰め	97,638
		梅種取り	132,917
		椎茸シール貼り	229,598
		梅シール貼り、箱おり	95,884
	小計		556,037
	受託作業	龍神マッシュアップ実習	365,000
便利屋		260,170	
花いっぱい運動		1,140,000	
小計		1,765,170	
リサイクル	アルミ缶回収	39,960	
販売、バザー等	そうめん、うどん販売	182,730	
	チョコレート、昆布販売	68,660	

		その他	10,850
	小 計		262,240
総 計			3,524,210



7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	2	3	1	7
女	0	1	3	6	3	0	13
計	0	1	4	8	6	1	20



【就労継続B型事業所】

か〜む

1. 運営概況

前年度の1日あたりの平均利用者数14.2人に対し、平成29年度は13.8人と前年度より0.4人減という実績であった。新規利用者の受入れが2人に対して、退所者が1人であり、登録者数は1人増となっている。利用者の入退所の動きは少なかったが、欠席が長期間になるケースも複数あり、前年度の実績を下回る事となった。

2. 事業報告

①就労支援活動

- (1) 梅塩の袋詰め作業を新規作業として取り入れた。他の作業に比べ収益性が高いこともあり、流れ作業の役割を複数創出し、できそうな役割を作業体験してもらう機会を設けるなどして、作業の定着に努めた。作業に従事できる利用者を安定して確保できる状況になった。
- (2) 箱折作業、梅の種抜き作業に継続して取り組んだ。従来の作業も変わらず行なう事で、環境の変化や作業内容の変化を受け入れがたい利用者も、安心して作業参加できる状況となるよう、可能な限り配慮した。
- (3) ジュース販売活動を継続して実施した。ホットドリンクの販売を開始したことで、在庫数管理が複雑になったが、利用者の仕事としての役割が定着するよう支援した。空の日フェスタでのバザー出店も行ない、収益の向上に努めた。
- (4) 作業時に必要な消耗品や衣類等の活用を徹底し、異物混入を防ぐと共に、作業従事する利用者の衛生面向上に努めた。

②生活支援活動

- (1) 支援が必要な利用者に対して、服薬管理や金銭管理を実施した。服薬や金銭については受け渡しに関するトラブルを防ぐため、記録を残し実施した。
- (2) 生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、買い物支援を継続して実施した。
- (3) 館内の清掃活動を実施し、掃除の仕方、道具の使い方等を身に付けられる機会を提供した。
- (4) 利用者の親睦を深める事、余暇の充実等を目的に、週に1回の定期的なレクリエーション

ョン活動を実施した。また、遠方に出かける内容等を含む班別レクについては、6つの企画（イチゴ狩り・ニタマ駅長・クルージング等）を実施した。

③ 個別支援関係

- (1) 利用者一人一人に必要な支援が効果的に実施できるよう、面談を適宜取り入れ支援した。
- (2) 通所が滞った利用者に対し、電話連絡や家庭訪問等も取り入れながら、次の通所につなげる取り組みを行なった。
- (3) 集団活動を行なう中で、他者との関係でトラブルとなった際には、個別対応で問題が解決していくよう努めた。本人の主訴に対する反証の提示、新たな考えにつながる為の考え方等を話題に取り入れ、少しでも物事を柔軟に捉えられるよう支援した。

3. 地域交流活動

- ① 空の日フェスタ（白浜空港）でバザー活動を行なった。

4. その他の活動

- ① 生活困窮者自立支援プログラムの委託を受け、生活保護受給者を事業所でのボランティアとして受け入れた。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見、DVD鑑賞	10月	BBQ（古道ヶ丘）、グラウンドゴルフ
5月	カラオケ、買い物、外食	11月	紅葉（奇絶峡）、写生会、防災訓練
6月	買い物・外食（りんくうイオン）、田辺消防署見学	12月	調理実習（たこ焼き）、クリスマス会、大掃除
7月	調理実習（パスタ）、風鈴絵入れ	1月	初詣、書初め、やおき新年会
8月	流しそうめん、かき氷、大掃除	2月	観梅（南部梅林）、ボーリング
9月	空の日フェスタ（白浜町）、ぶどう園	3月	健康診断、防災訓練、茶話会

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
定員	29 年 4 月 20 人	30 年 3 月 20 人
実利用者数	29 年 4 月 21 人	30 年 3 月 22 人
1 日平均利用者数	29 年 4 月 14.1 人	30 年 3 月 14.7 人
職員常勤換算配置数	29 年 4 月 4.9 人	30 年 3 月 4.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 245 日	休日開所日数 6 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	内職 (梅・箱等)	688,200 円
	依託作業 (給食運搬)	364,990 円
	ジュース販売	415,520 円
	アルミ缶回収、他	53,695 円
	計	1,522,405 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 5,000 円	実績 5,242 円

7. 利用者の年齢層 (平成 30 年 3 月末) @

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男			2 人	4 人	2 人	2 人	10 人
女			2 人	5 人	3 人	2 人	12 人
計			4 人	9 人	5 人	4 人	22 人

ほわいとホーム

1. 運営概況

平成29年度は利用者の入退所はなく、定員10名に対して年間を通して満床の状態だった。入院治療が必要となった方が2名（計3回）おられたが、1～2週間程度の入院であったため、年間の利用率は9.9名という実績だった。

グループホームの統合に伴い、ほわいとホーム単体としての運営は平成29年度を以て廃止する運びとなり、次年度からはゆうあいホームの従たる事業所となり、支援は継続していく事となった。

2. 事業報告

①生活支援活動

- (1) 平日の給食提供を継続して実施した。休日については、買い物支援を行なった。
- (2) 月1回、調理実習を実施した。
- (3) 歩行運動の機会を持つと共に、必要な利用者には継続的な体重測定を実施し、体調維持、増進のための取り組みを行なった。
- (4) 居室整理や入浴の習慣化に対する支援を、継続して行い衛生面の向上に努めた。
- (5) 余暇活動支援として、休日におけるレクリエーションの頻度を増やし、利用者の意向に沿う取り組みを継続して実施した。

②個別支援関係

- (1) 定期的に面談を実施し、アセスメントに基づく個別支援計画の作成を行ない、半期毎にモニタリングを実施した。
- (2) 支援が必要な利用者に対し、金銭管理や服薬管理等を行なった。
- (3) 血圧測定や水分接種量等の見守り確認を、医療機関の指示に沿う形で実施した。
- (4) 必要に応じて受診同行等、医療機関との連携により支援した。

3. 地域交流活動

町内会の清掃活動に積極的に参加し、町内美化に協力した。

4. その他の活動

- ①月1回の定例自治会を継続して実施した。自治会活動として行なう誕生日会やレクリエーション活動の企画立案、実施を支援した。
- ②保護者懇談会を実施（参加者3名）し、活動報告を行なうと共に、意見交換の機会を持った。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見・ドライブ	10月	
5月	買い物レク、温泉レク	11月	BBQ、グラウンドゴルフ大会
6月	バラ園散策	12月	忘年会（外食）防災訓練
7月	買い物レク	1月	初詣、保護者懇談会
8月	たきない夏祭り	2月	ふれあい文化祭、温泉レク
9月	空の日フェスタ	3月	マナー講習会（外食）

1. 毎月定例：調理実習、自治会、ゴミブリ駆除点検

6. 数値実績

ホーム名	ほわいとホーム	
定員	29年4月 10人	30年3月 10人
実利用者数	29年4月 10人	30年3月 10人
職員常勤換算配置数	29年4月 2.6人	30年3月 2.6人
年度中の入退所	入 所 退 所	0人 0人
利用市町村内訳	田辺市	3人
	白浜町	1人
	上富田町	1人
	すさみ町	1人
	和歌山市	1人
	美浜町	1人
	串本町	1人
	紀宝町	1人

7. 利用者の年齢層（平成30年3月末）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男				3人			1人	4人
女				5人		1人		6人
計				8人		1人	1人	10人

【就労移行・就労継続支援B型事業所等】

すまいる

1. 運営概況

今年度も多機能型での運営を行い、就業センターとの連携を図り、障がい者雇用で4名就労に繋ぐ事が出来た。今年度も新規利用者確保の不安がある年であったが、みなべ町からの委託相談で受けている相談者が、何人か福祉サービスに繋がった。

ここ最近相談者が増えてきている相談が、身体障がい者の就労、リハビリ相談、また不登校だった方の通所する居場所の相談が増えている。身体障がい者の方を受け入れるにあたり、前年度から施設のバリアフリー問題に取り組む事が、今年度も出来なかった。次年度は専門機関、関係機関と相談し、改善出来る部分は改善し、就労に繋げていく方向も模索していきたい。

目標工賃は、前年度に比べ施設外作業が減ってしまい、収入も減少してしまった。次年度の課題として、利用者の希望を聞き実習先を増やし、授産事業収入の安定に繋げていきたい。

2. 事業報告

①就労支援活動

「就労移行支援」 就職者 3名

- ・施設内訓練－軽作業訓練を行い、個別で職場マナーを習得する支援に取り組んだ。

1年目は、就業SSTを行い挨拶、言葉使い等習得に繋げ、2年目からは実習の場を増やし、仕事の正確性、スピードの習得、仕事上でのコミュニケーション（仕事の指示・質問・返事等）を習得する取り組みを行った。施設内訓練での取り組みは、概ね達成出来たが、本人との振り返りを、もっと定期的に行っていれば、就労訓練者の意識付けに繋がる必要性を、改めて感じた。

今年度就職した3名の就職者のうち1名は、再就職希望者で、利用期間1年未満（4ヶ月）で早い段階での就職であった。他2名は、支援学校卒業後、自立訓練2年、就労移行支援3年利用し、約5年かけて就職に繋ぐ事が出来た。

今後も、就労移行支援の期間延長が必要な利用者には、個々の状況を見守りながら、就労に繋げるサービス内容等を、柔軟に対応していきたいと思う。

- ・ぼのぼの工房では、主に接客業、ランチ営業、菓子加工業、菓子包装に取り組んだ。

前年度9月よりランチ営業を開始し、週3回の営業内容も定着し、就労訓練者の作業内容も増え、飲食に興味を持つ利用者が、増えてきている。ぼのぼの工房で働く利用者の多くは、仕事する能力は高いが、人数が多い環境、環境の変化が苦手な利用者が多い為、他実習に繋がりにくい。本人ペース重視で対応しているが、就労意欲が低迷しない様、就労訓練の工夫に取り組んでいきたい。

- ・施設外実習は、みなべ町梅屋実習で、4年継続し行っている。梅屋実習に慣れてきたら、自力通勤で半日→1日→連日実習で、個々に合わせたシフトを組み、仕事する体力、気力を身に付けるよう取り組んだ。その他は、就業センターとの連携実習にも参加してもらい、就業センター職員と情報共有し、就労支援に取り組んだ。
次年度は、本人の様子を見守りながら、早期実習に取り組み、仕事する体力、気力を、早めに身に付けれるよう取り組んでいきたい。

「就労継続支援B型」就職者 1名

- ・施設内訓練—今年度は、前年度授産活動内容の見直しを行い、同じ仕事内容で生産活動を行った。通年ある仕事内容（箱折、梅関係内職）で、仕事と工賃の安定に繋がってはいるが、利用者の方が、慣れた仕事を選択しがちな状況もある。本人が、色々な作業に挑戦出来るよう声かけと、作業環境を整えていきたい。昨年度末より身体障がい者の利用者が増え、再就職希望もあり、本人の出来る仕事探しを行うが、就労訓練内容も探せていない状況である。専門機関、関係機関と相談し、作業内容の充実に繋がってきたい。
- ・施設外訓練—施設外作業（梅加工業・梅採り・梅枝拾い・清掃業等）を行い、仕事する体力作り、仕事への意識付けを行った。毎年参加する利用者も決まっているが、年々暑い中での作業の為、体力の衰えを感じる一面もあり、配慮しながら取り組んだ。みなべ町内にある施設の館内清掃は、職員同行でなく、利用者同士での声かけで、取り組んでもらい、利用者同士のコミュニケーションも増えてきている。
反面、主に企業実習訓練で時間をかけ取り組んでいるが、仕事はこなせても、社会性が身に付いておらず、就労継続B型で、就労実習期間が必要な利用者も増えている。

②生活支援活動

「自立訓練」

- ・身だしなみ—歯磨き、洗髪、爪、服装チェックを、朝礼時毎日取り組む事で、本人の動機付けになり気にかける事が、出来るようになってきた。
服装は、季節替わりの際、薄着、厚着の点を、朝礼時、その都度声掛けを行い、仕事しやすい服装の心がけを行った。継続して利用者、職員全員で取り組み、習慣づけていきたい。
- ・掃除、給食当番—自立訓練として、利用者全員に取り組んでもらっている。
掃除は、施設外実習で慣れている利用者もいる為、施設内の美化にも繋がり、大変助かっている。声掛けが必要な利用者は、当番を一緒に行い、衛生面に気をつける意識を持ち続ける取り組みを継続していきたい。
- ・調理実習—調理実習は、新年度と兼ねて1回しか開催する事が出来なかった。利用者の方も始めて卵を割ったり、包丁を握ったりする方もおられ、心配する面もあったが、新年会と兼ねて行った事も良かったのか楽しく参加出来ていた。

食べる事に興味ある利用者が多い為、今後も出来る範囲で、調理実習する機会を、増やしていきたいと思う。

「健康管理」

- ・健康診断一通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めた。市町村で行ってる健康診断の声掛けも行い、がん予防にも努めていきたい。
- ・体調管理日々利用者の様子を見守り、必要な際は、家族に連絡し体調管理の安定に繋げるよう取り組んだ。今年度は、インフルエンザで何人かの利用者が休む事になってしまった。施設側としても、1年通して病気、感染を予防する衛生管理の必要性を感じた。研修等に参加し、安全な衛生環境が保てるよう努めていきたい。
服薬管理が必要な利用者は、本人、家族と一緒に受診同行し、服薬管理の状況把握を行い、体調管理の安定に繋げるよう努めた。また、高齢利用者の受診送迎のお願いもあるが、出来るだけ家族に協力してもらい、また地域包括支援事業と情報共有し、利用出来るサービス等を検討していく方向で進めている。
- ・受診同行ー利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声かけ支援を行った。必要な際は、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組んだ。緊急性が高い際は、家族、関係機関との連携を密にとり情報交換、情報共有を行い、緊急対応する体制作り、役割分担の確認を行った。

③個別支援関係

利用者の意向を尊重し、出来るだけ具体的な目標設定を心がけ支援計画の作成を行った。目標がある利用者は、目標に向け前向きな気持ちで、取り組んでくれているが、目標が立てづらい利用者には、利用者に寄り添いながら、挑戦したい事を見つける支援を行った。本人の意向を中心に支援計画を立案するが、意思伝達等が難しい利用者は、家族の意向も確認し、個別支援計画作成に繋げていくよう心がけている。

行動障害がある利用者は、必要な際は、日中の様子を連絡し情報共有を図った。不定期だが、本人、家族、医療関係者で話し合う場を持ち、虐待に繋がらないよう取り組んだ。

3. 地域交流活動

今年度からぼのぼの工房を起点に、地域交流出来る場として、みなべ町の地域福祉計画に取り上げてもらい、今年度は、納涼会、ぼのぼの絵画展、見えない障がい者の話合いの場を持つ事が出来た。ぼのぼの工房も、約3年目を迎え、地域住民の関係者と連携しながら、地域交流出来る機会を増やしていきたいと思う。

4. その他の活動

「相談事業」

みなべ町から委託で受けているみなべ町障がい者相談支援事業と、計画相談事業を行

った。障がい者相談支援事業で継続して相談にのっている相談者は、60人（精神 35人・知的 14人・発達 9人・その他 2人）。60人中新規相談者は、15人であった。相談内容は、日中在宅生活を送っている精神障がいの相談者が多く、内容は、精神面の不調、薬の調整、入院等、知的障がいの相談内容は、就労、金銭、発達障がいの相談内容は、福祉サービス利用、高校卒業後の就労相談、生活相談等であった。本人、家族に福祉サービス、医療サポートの情報提供を行い、施設見学、受診同行、随時相談にのり、日常生活の安定が図れるよう相談業務を行った。委託事業として相談業務を行っているが、相談員の確保が出来ていない状況もあり、今年度は、行政と話し合いを行い計画相談業務を増やさず、相談業務の安定が図れるよう取り組んだ。新制度になり、相談業務体制も変わってきている為、再度行政、関係機関とも協議し、相談事業体制の基盤作り、緊急時の体制整備を図っていききたい。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見（島ノ瀬ダム）	10月	すまいる旅行（大阪旅行） 日帰り旅行 （和歌の浦・みさき公園・和歌山イオン） スポレク（GG練習）
5月	スポレク（市ノ瀬体育館）	11月	みなべGG大会（共和球場）
6月		12月	クリスマス会
7月	ボーリング・ショッピング （パビリオンシティー）	1月	初詣（闘鶏神社・ガスト） 新年会（調理実習（酢豚・炒飯・ゲーム）
8月	ぽのぽの納涼会（BBQ・ゲーム）	2月	観梅（南部梅林）
9月		3月	スポレク（大矢体育館）

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	29年4月	30年3月	29年4月	30年3月
定員	7人	7人	20人	20人
実利用者数	7人	6人	26人	28人
1日平均利用者数	4.7人	5.8人	22.7人	19.7人
職員常勤換算配置数	3.1人	2.9人	4.2人	4.9人

年間稼働日数	総稼働日数 250 日	休日開所日数 22 日	総稼働日数 253 日	休日開所日数 22 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)	科目	収入 (円)
	自主製 (ぼの) バザー	697,169 230,237	自主製 (ぼの) バザー	2,334,000 770,793
	施設内売上	624,540	施設内売上	2,090,850
	施設外売上	459,114	施設外売上	1,537,033
	受託作業	119,199	受託作業	399,057
	計	2,130,259	計	7,131,733
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 22,000 円	実績 31,677 円	当初目標 17,500 円	実績 19,835 円

7. 利用者の年齢層

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	1	5	3	7	2	2	20
女	1	6	3	1	2	3	16
計	2	11	6	8	4	5	36

【グループホーム】

みなべ鹿島ホーム・浜市・サンフラワー

1. 運営概況

平成 26 年 9 月に大型住居みなべ鹿島ホームを、老朽化で移転し、同時期よりサンフラワーの老朽化問題も同時にあり、今年度中に縮小予定で進めていた。

サンフラワー入居者 3 人との話し合いを行い、平成 29 年 7 月にサンフラワーから引越、8 月よりみなべ町での単身生活へ移行していった。そして、みなべ鹿島ホーム入居者も、就労先が近い GH（田辺市）に移行していった。その後、みなべ鹿島ホーム入居希望者の受け入れを行ったが、生活面での見直し、就労事業所、家族との調整に時間がかかってしまった事等で、経営的な問題も多く残してしまった。

今後も、みなべ町で GH 運営を継続していく上で、入居者の将来の生活を見据えての、GH 運営を検討していきたい。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・食事支援ー平日の朝食、夕食支援を行い、入居者の体調面の安定に繋げるよう取り組んだ。入居者の中には、お弁当を持っていく入居者もいる為、夕食後、弁当作りの助言を行ったりした。長期休みの際、帰省しない入居者には、入居者の希望を聞き、おせち弁当配達を行った。
- ・健康管理ー日々入居者の様子を見守り、健康診断結果の確認、服薬内容の変更等の確認を入居者と一緒に行い、体調面、精神面の安定に繋げた。
入居者の多くが、体を使う仕事が多く、年齢的な問題もあるが、腰痛の訴えは、多い。本人の様子を見守り、必要な際は、早期受診の声掛けを行い、繁忙期も休まず就労出来たが、年々、体力が衰えてきている様子は伺える。体調面、精神面で気になる内容は、関係機関（福祉事業所・医療機関・家族等）に伝え、今後も情報共有を図っていききたい。
- ・GH掃除、自室の掃除ー定期的な掃除チェックを行い、片付等がわからない場合は、一緒に取り組み整理整頓し衛生面への意識向上の取り組みを行った。浜市社宅は、単身生活の為、定期訪問を行い、掃除する機会を作り衛生面に気を付ける意識付けを図った。長期休暇の際も、協力して掃除当番を交替しながら清潔に保つよう心がけてくれている。
- ・金銭管理、買い物ーお小遣いの希望額を、本人と話し合い金額設定し取り組んでもらった。定期的に小遣い帳を確認しながら、本人と振り返りを行い、自分のお金は、自分で管理する意識付けを図っている。少しずつではあるが、必要な物（食品・日常雑貨

等)を、自分で購入出来るようになってきている。

今後も、生活状況を見守り、必要な際は助言していきたい。

②個別支援関係

個々に個別支援計画を作成し、定期的に入居者との振り返りを行い、自立生活の安定に繋がる支援を、本人の意向を聞きながら取り組んだ。

昨年度は、入居者の両親も病気等で体調を崩し、動揺する入居者もいたが、一旦施設入所や家族支援で落ち着き、入居者の方達も安心して日常生活が送れるようになった。今後も、入居者の日常生活の安定に繋げていけるよう、家族や関係機関との情報交換や情報共有を行い見守っていきたい。

3. 地域交流活動

毎年11月に開催されるみなべ町はあととはあとグランドゴルフ大会に参加し、地域交流する機会をもった。その他は、観梅シーズンに、バザー等に積極的に参加し、手伝い地域交流を図った。入居者達も、地域住民の方と触れ合う事が出来て楽しかった感想も多かった。今後も、地域参加で交流出来る場を見つけ、参加出来る際は、参加の促しを行っていかうと思う。

4. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		
5月	避難訓練・溝掃除	
6月		
7月	サンフラワー引っ越し	
8月	B B Q. みなべ花火祭(みなべ鹿島ホーム)	引っ越し祝い
9月		
10月		
11月		
12月	クリスマス会・忘年会・大掃除	
1月	新年会(更科)	
2月		
3月	避難訓練	

5. 数値実績

ホーム名	鹿島ホーム・浜市		サンフラワー	
定員	29年4月	30年3月	29年4月	29年7月

	4人	4人	4人	4人
実利用者数	29年4月 4人	30年3月 3人	29年4月 3人	29年7月 3人
職員常勤換算配置数	29年4月 1.5人	30年3月 1人	29年4月 1.5人	29年7月 1.5人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 1人	入 所 退 所	人 3人
利用市町村内訳	田辺市	2人	田辺市	1人
	白浜町	人	白浜町	人
	みなべ町	1人	みなべ町	1人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	1人
	古座川町	1人	串本町	人

6. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		2		1	1		4
女		1		1	1		3
計		3		2	2		7

【就労継続支援 B 型】

いなづみ作業所

1. 運営概況

入浴や洗濯等、衛生的な日常生活が困難になりつつある利用者が数名出てきた。他の利用者から臭いについての苦情もあり、介護保険サービス利用への促しを行っているが、本人と家族はいなづみの利用を強く希望しており、対応に苦慮する場面が増えてきた。

また、アルコール依存やうつなどが原因で利用するケースも増えてきており、それに伴いすさみ町から委託されている相談支援事業の業務量も増えており、担当者の通常業務に支障が出ている。

2. 事業報告

①就労支援活動

27年4月に一般就労した3名の利用者が、工事修了に伴い作業内容が大幅に変わったため退職する事となり、29年6月より、いなづみ作業所を再利用する事になった。その中の1人が、30年3月より、地元の事業所（堀長木材）へ就労する事になった。太陽光発電所の管理業務に加えて、従来 of 草刈り作業も引き受けた為、生協配達をやめたにもかかわらず、平均工賃は2万円を超える事が出来た。しかし、メンバーの体調を考えると、少しペースを落とすべきではないかとも考えているが、工賃が給付費に直結した為、安易に作業の縮小ができず、ジレンマに悩まされている。

②生活支援活動

利用者が高齢化し、体力や作業意欲が落ちてきていることで、数名の利用者が1日の殆どをホールで過ごしている状況。職員の誘い掛けで、野菜の収穫、散歩等に行くこともあるが、他の作業や運動には気乗りしない様子で、近い将来の介護保険サービス利用を視野に入れ、デイサービス見学に職員が同行を行ってきた。体調面では、受診同行を継続しながら体調を把握し、ヘルパーさんと連携しながら必要に応じて服薬管理と食生活の見守りを行っている。また、入浴がまめにできていない利用者が多いため、作業が無い時等に皆で温泉に行き、職員が体を洗う指導を行った。

③個別支援関係

利用者それぞれに就労面、生活面の目標を立て、職員で共有しながら支援を行ってきた。就労面では、屋外でバリバリと働く利用者がある一方で、屋外作業に苦手意識がある利用者もあり、手順の説明をしながら支援を行ってきたが、どうしても関わりが少ない利用者もみられ、どういった作業を提供するかが課題でもある。また、昨年度同様、高齢の利用者には生活支援に重点を置く必要があり、無理のない範囲の作業への参加で、体力や認知機能を維持していくことを目標としてきた。

3. 地域交流活動

町内行事に積極的に参加し、いなづみ作業所の存在を広く町民に知ってもらっている。同時に、バザーの売り上げによる工賃アップにも繋がっている。

4. 相談支援事業

相談に関わったのは年間 10 名で、いなづみ作業所利用に繋がったのはその内 3 名であった。傾向としては、アルコール依存症で入院し、退院後の生活を立て直すために、関係機関からの相談が増えている。アルコール依存症の場合、他に精神的な問題を抱えているケースもあり、家族、病院、行政、他事業所等と連携しながら支援を行ってきた。その他、新規の障害年金や障害者手帳申請等の手伝いも数件あり。また、ゆめふる、役場との連携により、月 1 回ケース報告等を行っている。

5. その他の活動

煙草を吸う利用者が多いので、火災への注意喚起も兼ねて防火訓練を行った。119 番への通報等、職員の訓練にも大いに役立った。

6. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4 月	愛の会和歌山バザー参加 花見（動鳴気峡）・買い物	1 月	買物・外食（新庄食堂・イブファーム） やおき新年会
5 月	イノブタまつりバザー参加 調理実習	2 月	芋餅作り / 観梅（南部梅林）
10 月	釣り・買い物（扇ヶ浜） ソフトボール大会	3 月	いきいきふれあいまつりバザー参加 自治会
11 月	町民運動会バザー参加 四国 1 泊旅行		
12 月	すさみ町愛のバザー参加 忘年会		

7. 数値実績

事業種別	(例) 就労継続支援B型			
定員	29年4月	20人	30年3月	20人
実利用者数	29年4月	24人	30年3月	22人
1日平均利用者数	29年4月	16.5人	30年3月	17.3人
職員常勤換算配置数	29年4月	4.8人	30年3月	4.8人
年間稼働日数	総稼働日数	242日	休日開所日数	7日
授産科目及び授産収入 (別紙参照)	科目		収入(円)	
	自主製品		216,070円	
	物品販売		328,003円	
	バザー		663,750円	
	受託		2,622,879円	
	便利屋、その他		2,306,411円	
	計		6,137,113円	
工賃実績 (一人当たり)	当初目標		実績	
	時給 445円		時給 580円	
	月給 14,448円		月給 20,659円	

8. 利用者の年齢層

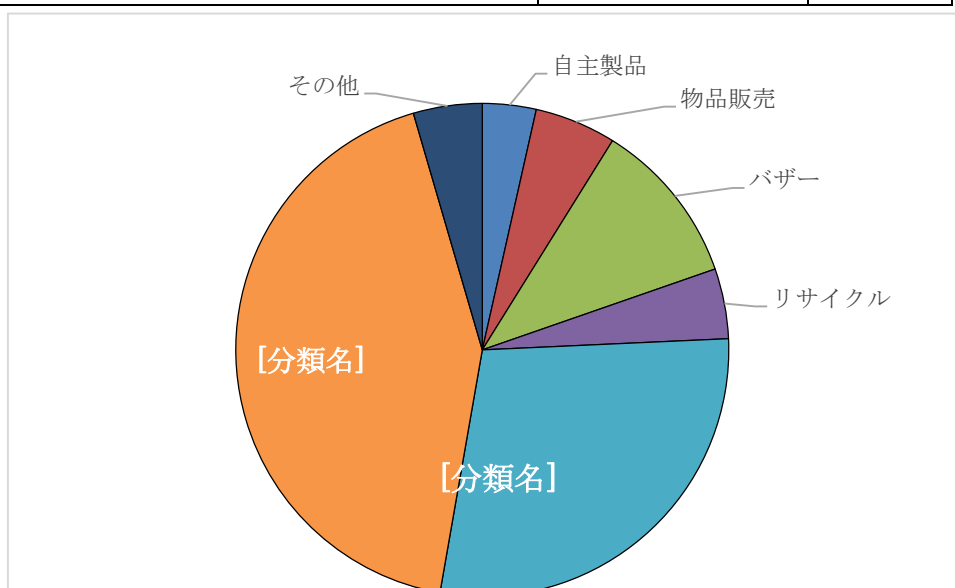
性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	1	3	5	1	6(4)	2	18
女	0	0	1	2	2(2)	1	6
計	1	3	6	3	8(6)	3	24

※60代のカッコ内は65歳以上の人数です

<別紙>

平成 29 年度 いなづみ作業所 就労支援事業年間売上集計表

自主製品	野菜	58,050	3.5%
	肥料	154,070	
	石けん	3,950	
	小計	216,070	
物品販売	自販機	31,113	5.3%
	ちゃんぽん販売手数料	71,400	
	そうめん利益	37,490	
	ジュース売上	188,000	
	小計	328,003	
バザー		663,750	10.8%
リサイクル	古紙回収	175,280	4.6%
	アルミ	106,750	
	小計	282,030	
便利屋	墓掃除	208,600	28.5%
	草刈	1,161,452	
	洗車	377,420	
	小計	1,747,472	
受託作業	若者広場	171,000	42.7%
	太陽光発電所管理	1,632,000	
	洗濯	692,700	
	生協	127,179	
	小計	2,622,879	
その他		276,909	4.5%
合計		6,137,113	100.0%



【グループホーム】

南紀の台ホーム

1. 運営概況

年度当初から年度末まで7名の利用で入退所の動きのない一年であった。1名は、就職後間もなく退職となり長期の自宅療養となったが1月にホームに復帰した。

平成30年度からはゆうあいホームのエリア指定となるべく必要な体制について検討し進めた。次年度からは夕食については配食となるため、今年度が南紀の台ホームで給食を提供する最後の年度となった。次年度もホームとしての一体感は維持しながら運営していきたい。

職員体制は世話人2名体制（常勤換算1.5名）で、やおき工房がバックアップした。

現在の利用者の日中活動としては、一般就労が1名、やおき工房3名（就労継続B型3名）、すまいる1名（就労継続B型1名）、あゆみ福祉食堂1名（就労継続A型1名）となっている。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の朝食・夕食の給食サービスを提供した。
- ・毎週（土）には館内清掃を行い、共有スペースの清掃を利用者が協力しながらできるように支援した。
- ・トイレ掃除やフロの準備・掃除・ゴミ出し等については利用者持ち回りでかかわれるように支援した。
- ・自治会活動をサポートし、利用者同士で話し合い解決できるよう支援した。また、自治会主体で行事等の企画実施ができるように支援した。
- ・土曜日は外食支援や買い出し支援・余暇支援を行った。
- ・やおき工房がバックアップを行い、隔週（水）の夜間や世話人不在時及び緊急時の支援を行った。

②個別支援関係

- ・個別支援計画を作成し、関係機関や家族等と連携しながら必要な支援を行った。
- ・原付免許の取得支援を行い試験6回目で見事合格する。また、堀口モータース様の協力を頂いて、免許取得後の走行訓練等を行った。
- ・必要に応じて金銭管理を行い、適切に管理できるよう支援した。1名については就職後の金銭管理の自己管理につまずき、借金・ローン・退職に至ってしまった。金銭管理を本人にどう返していくのかの課題も見えてきた。長期の自宅療養となったが、その間、自宅訪問し本人と家族の話し合いを重ね、主治医・相談事業所

とケース会議を重ねてホーム復帰を果たしている。

- ・必要に応じて服薬管理や受診同行等の支援を行い健康面に配慮した。肥満・高血糖・高コレステロールの利用者2名については、継続的に受診同行や健康管理のサポートを行っている。節酒支援（受診同行・断酒補助薬・現物給付等）を行っていた1名については、年度途中で飲酒コントロールができなくなり、作業所の通所が途絶えたり、日中の多量飲酒が見られたりした。本人・家族・関係機関での話し合いの中で、本格的な断酒治療を開始することとなった。
- ・必要に応じて買い物同行支援を行い、必要な買い物ができるように支援した。
- ・必要に応じて手続きの同行等を行い支援した。
- ・衛生面の保持が難しい利用者には、定期的に洗濯や掃除等の家事援助を行った。

3. 地域交流活動

- ・南紀の台町内会に賛助会員として加盟した。

4. その他の活動

- ・精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会に1名が出場した。残念ながら予選突破とはならなかったものの健闘した。
- ・家族懇談会は開催しなかったが、必要に応じて家族と連絡を取る等した。家族が入院となる方や経済的な支援が必要な方、障害もあり家族にサポートが必要な方等もあり、本人を支える家族のサポートも必要な状況も出てきている。
- ・防災訓練を12月9日に実施し、上富田消防署の指導の下、通常の避難・誘導・消火訓練（水消火器）に加えて、夜間の職員不在の場合を想定しての火災発見・避難・通報の訓練も行った。また、職員1名が2月に防火管理者講習会を受講した。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	自治会	10月	自治会
5月	自治会、誕生会	11月	自治会、誕生会
6月	自治会	12月	自治会、クリスマス会&誕生会 忘年会（スシロー田辺） 防災訓練
7月	自治会	1月	自治会
8月	自治会、うなぎ食事会&誕生会	2月	自治会、本宮温泉レク
9月	自治会	3月	自治会 年度末食事会&送別会（松島園）

6. 数値実績

ホーム名	南紀の台ホーム	
	定員	29年4月 7人
実利用者数	29年4月 7人	30年3月 7人
職員常勤換算配置数	29年4月 1.75人	29年3月 1.75人
年度中の入退所	入 所 退 所	0人 0人
利用市町村内訳	田辺市	2人
	白浜町	1人
	上富田町	1人
	古座川町	1人
	那智勝浦町	1人
	新宮市	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男		2	3	1	1		7
女							
計		2	3	1	1		7